



高知大学農林海洋科学部・農学部  
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

# 後援会だより



# 目 次

ご挨拶 農林海洋科学部・農学部 後援会長 佐野 健一 .....	1
ご挨拶 農林海洋科学部長 農学部長 尾形 凡生 .....	2
農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介 .....	3
学生寄稿	
農林海洋科学部 .....	5
農学部 .....	12
大学院 .....	24
就職等進路状況資料 .....	31
後援会資料	
平成29年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿 .....	33
平成29年度 予算書 .....	34
平成28年度 決算書 .....	35
後援会の活動状況 .....	36
平成29年度 保護者会の報告 .....	37
高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則 .....	38
平成29年度 学年暦 .....	39
物部キャンパス Photo Album .....	40

# ご挨拶

農林海洋科学部・農学部  
後援会長 佐野 健一



会員の皆様におかれましては、平素より後援会活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度、後援会会長の大役を仰せつかりました佐野健一と申します。誠に微力ではございますが、保護者代表として、後援会の役員・事務局の皆様方とともに、ご子息、ご息女が充実した大学生活を送ることができるよう教育事業の援助ならびに会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。

高知大学は、1949年（昭和24年）5月、国立学校設置法の公布と同時に、国立大学一期校（旧帝国大学7校を含む全国28大学）として創立されました。

以来六十有余年、地元の皆様方をはじめ関係各位のご尽力により、創立当初の3学部（文理学、教育学、農学）から、現在は6学部（人文社会科学、教育学、理学、医学、農林海洋科学、地域協働学）および大学院研究科をはじめ、数多くの研究所・観測所ならびに学校、病院など各種施設を擁する総合大学へと飛躍的に発展して参りました。

大学創立と同時に設置された農学部は、本学の理念である「地域社会および国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究」を実現するため積極的な教育研究活動を推進して参りました。そして、教育研究活動の更なる深化を図るため「人と環境が適切な共生関係を保ちながら持続的発展する未来社会」の構築に貢献できる意欲ある人材の育成、また、農学・海洋科学分野の専門的知識、実践的技術および豊かな教養を身につけて、物事を広い視野から科学的に捉えることができ、課題発見能力、自律的な問題解決能力、更には世界に向けての発信能力を備えた人材の育成を目的とし、新たに「農林海洋科学部」として、昨年、その一歩を踏み出しました。

後援会では、ご子息、ご息女が本学部の研究活動を通じて大きく成長し、自分自身の力で問題を解決して将来を切り開くことができる逞しい力を身につけることができるよう、保護者の方々とともに見守りながら、学生の研究活動や福利厚生事業等への支援を続けて参りたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも、後援会活動への一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

学生の皆様におかれましては、大人社会の一員であるという自覚を持つとともに、近い未来を予測する能力を磨いて頂きたい。外的要因に著しく左右されて本人の意志ではどうしようもない場合を除き、「自ら発言する」「自ら行動を起こす」ほとんど全ての場合において、内容の選択肢は自分の手中にあります。自らの言動により引き起こされる事態（=来るべき近未来）を全く以て予測できていないと、取り返しのつかないことになる可能性もあります。後になって、『少し考えればわかったことなのに・・・』と後悔することがないように、賢く生きてください。

そして、二度と戻らない今日のために、学問に励むだけでなく、サークル活動に汗を流し、友と大いに語り、心の底から笑い転げ、安易に逃げずにとことんまで悩み、涙枯れるまで思い切り泣いてください。

そんな中で培った友情は歳月が流れても色褪せることはありません。この先、遠く離れることになったとしても目を閉じれば、みなさんに優しく微笑みかけてくれる友の顔がきっと浮かんでくるはずです。



# ご挨拶

農林海洋科学部長  
農学部長

尾形凡生



後援会の皆様には、日頃より、学部教育運営および学生の福利厚生に多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

高知大学農学部は、昨年度より学部組織を改編し、従来の1学部8カリキュラムコースの体制から、農林資源環境科学科、農芸化学科、海洋資源科学科の3学科を擁する農林海洋科学部へと生まれ変わりました。

農学部は、昭和24年の新制高知大学の誕生と同時に設置されました。学生定員や教員定数などの数字から見る限りでは必ずしも大規模とは言い難いものの、獣医学を除くほぼすべての農学領域を内包し、農業に関わることはなんでも学べる総合学部として歩みをすすめてまいりました。今回の改組は、これまでの農学部の積み重ねてきたものは何ひとつないがしろにせず、その上で、これまで人類が手出しできなかった未知の資源の宝庫であって、かつ21世紀の飛躍的開発が見込まれる海洋生命科学と海底資源科学の2分野をあらたに仲間に加えました。すなわち、プラス思考、発展志向の組織改編でありますので、字面の上では「旧」農学部生となった上級生のみなさん、保護者のみなさんも、どうぞあたたかく「新」農林海洋科学部新生をお迎えいただきたく存じます。

私は新生を迎えた際のあいさつで、学生たちに「さあ、本を読もう。旅をしよう。恋をしよう。なぜなら、知識を得ることや、旅をして知見を広めること、恋をすることはいずれも、なにかも忘れて熱中するほど魅惑的なことであるが、一般の社会は、その構成員が何かに熱中すると生産の効率が下がるから、ヒトが夢中になることを阻止しようとするものである。大学は君たちが熱中することをあまり邪魔しない（少しは邪魔するかも）。充実した4年間を過ごしてください。」と伝えます。昨今、世間はなにかと功利主義、効率主義でものごとが語られる風潮が見て取れます。教養なき功利主義や精神論がいかにか悲惨な結末をもたらしてきたかは明らかであるのに、こころの余裕、考え方の多様性、教養や基礎科学を軽視するきざしがあちこちに見え隠れするのは危惧すべきことです。高知大学農学部生・農林海洋科学部生には、広大な自然の中で、のびのびと、かつ、たっぷり時間を使って豊かに学び、そして、真の常識を身に着けた社会人として羽ばたいてもらいたく、教職員一同、それをサポートするために奮励してまいりますので、ぜひ皆様も声を合わせて、若者たちを応援くださいますようお願い申し上げます。

# 農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介

農学部(農学科)は、平成28年度に改組を行い、農林海洋科学部(農林資源環境科学科、農芸化学科、海洋資源科学科)として新たに出発しました。入学定員は、170名から200名(30名増)となりました。農林海洋科学部・農学部を担当する教員、主な研究テーマ・活動を紹介します。

## 農林資源環境科学科担当

### 暖地農学主専攻領域

教授	尾形 凡生	暖地農学コース	果樹の成長制御機構の解明とケミカルコントロール技術の開発
教授	島崎 一彦	暖地農学コース	試験官内の組織培養によるランの苗生産技術の開発と希少植物の生態調査
教授	村井 正之	暖地農学コース	稲遺伝・育種、老人・病院用ご飯、米粉パン用極多収晩生品種、良食味、鑑賞用稲
准教授	西村 安代	暖地農学コース	野菜の養液栽培・生理障害・園芸施設の光環境・環境保全型農業
准教授	増田 和也	国際支援学コース	農山漁村における資源利用と社会変容に関する研究
准教授	松川 和嗣	暖地農学コース	高知県独特の和牛である土佐あかうしの生産振興にかかわる研究
准教授	宮内樹代史	暖地農学コース	園芸ハウスの環境制御技術の開発、植物生産流通システムの最適化
准教授	宮崎 彰	暖地農学コース	水稻の高温登熟性・水分生理に関する研究、熱帯有用植物の栽培生理
講師	濱田 和俊	暖地農学コース	果樹の開花・果実発育の制御およびメカニズムの解明
講師	松島 貴則	暖地農学コース	労働力問題と農業サービス、土地利用型農業の研究
講師	山根 信三	暖地農学コース	循環型農業生産・高品質種なし果実の作出・GTL利用省エネ多収農法

### 自然環境学専攻領域

教授	荒川 良	自然環境学コース	天敵昆虫を利用した農林・衛生害虫の防除の研究、害虫管理技術開発
教授	石川 勝美	自然環境学コース	パン適性小麦、天然資源・麦飯石の高度利用、水の構造化、植物工場
教授	大谷 和弘	国際支援学コース	生物活性天然化合物の探索と地域保健への応用
准教授	伊藤 桂	自然環境学コース	ハダニ・昆虫類を用いた行動生態学・進化生態学
准教授	手林 慎一	自然環境学コース	植物の病虫害や環境に対する抵抗性の化学的・分子生物学的解明
准教授	森 牧人	自然環境学コース	広域農林生態系の気象環境学的評価

### 森林科学主専攻領域

教授	大谷 慶人	森林科学コース	きのこの生態と栽培、樹木精油の機能、木材・非木材パルプ・紙
教授	後藤 純一	森林科学コース	林業機械の開発、林業作業計画のための森林空間情報システムの開発
教授	塚本 次郎	森林科学コース	環境・生物多様性保全に配慮した森林管理技術、落葉分解系の空間分布パターン
准教授	市浦 英明	森林科学コース	機能紙に関する研究、バイオマス産業廃棄物の再資源化に関する研究
准教授	市栄 智明	国際支援学コース	樹木の成長や繁殖、環境ストレス応答に関する研究
准教授	鈴木 保志	森林科学コース	林道・架線、森林作業システム、木質バイオマスの収穫と利用
准教授	古川 泰	森林科学コース	地方自治体の林業政策、林業労働問題、南アジア林業
講師	松本 美香	森林科学コース	中山間地域における森林管理、林業林産業構造、集落構造

### 生産環境管理学主専攻領域

教授	河野 俊夫	自然環境学コース	食品偽装防止技術、食品への異物混入検出技術などの食品安全工学
教授	藤原 拓	流域環境工学コース	地球温暖化を考慮した流域水環境管理に関する研究
教授	松本 伸介	流域環境工学コース	農業水利施設の構造設計、建設材料の新規開発、音環境の調査
准教授	齋 幸治	流域環境工学コース	地域水環境悪化の原因メカニズム解明と改善
准教授	佐藤 周之	流域環境工学コース	流域水環境管理および流域社会基盤管理に向けた総合的な工学的研究
准教授	佐藤泰一郎	流域環境工学コース	中山間地域の水・土・里環境保全、環境型傾斜地農業の推進
准教授	松岡 真如	国際支援学コース	衛星データやデジタル地図を活用した陸域環境の解析

## 農芸化学科担当

### 農芸化学科

教授	芦内 誠	食料科学コース	バイオベース新素材の開発と応用、環境先進型の微生物分子育種技術の確立
教授	岩崎 貢三	生命化学コース	土壌—植物生態系、植物の物質吸収・蓄積機構、環境保全型農業
教授	枝重 圭祐	生命化学コース	動物の生殖細胞の凍結保存技術の開発と耐凍性に関わる遺伝子の探索
教授	木場 章範	生命化学コース	植物の発病・免疫機構の解明～病気に罹らない植物をつくろう!～
教授	金 哲史	生命化学コース	昆虫行動を制御する化学因子・植物の生理活性物質に関する研究
教授	康 峪梅	食料科学コース	土壌・水の有害金属汚染、草原退化の機構解明と対策
教授	田中 壮太	国際支援学コース	熱帯土壌学、土壌生態学、持続可能な農業
教授	永田 信治	生命化学コース	食と健康と環境に役立つ有用微生物探索と産業利用
教授	曳地 康史	生命化学コース	植物細菌・ウイルスと植物の相互作用の解明、植物病害防除技術開発
准教授	上野 大勢	食料科学コース	高等植物の栄養生理に関する研究
准教授	柏木 丈弘	食料科学コース	食品中の生体調節物質の探求、食品の香り成分の有効利用
准教授	島村 智子	食料科学コース	食品成分に関する研究、食品の機能性の解明
准教授	村松 久司	食料科学コース	産業用酵素の探索・機能解析・応用法の開発
講師	若松 泰介	食料科学コース	新規有用たんぱく質の探索、機能解析・構造解析、そして応用

## 海洋資源科学科担当

### 海洋生物生産学コース

教授	足立真佐雄	海洋生物生産学コース	赤潮有毒プランクトンの研究、プランクトンによるバイオ燃料生産
教授	池島 耕	国際支援学コース	沿岸の環境、水生生物の生態と保全に関する研究
教授	大嶋俊一郎	海洋生物生産学コース	魚病原微生物の診断・感染機構・防除法、養殖魚の生産に関する研究
教授	關 伸吾	海洋生物生産学コース	魚介類の品種改良、野生集団の遺伝的保全に関する研究
教授	森岡 克司	海洋生物生産学コース	養殖魚の品質、鮮度保持に関する研究、未利用資源の有効利用
教授	益本 俊郎	国際支援学コース	魚が必要とする栄養素の働きを調べ、餌の開発に利用する研究
准教授	足立 亨介	海洋生物生産学コース	海産無脊椎動物と深海動物を用いたバイオテクノロジー
准教授	中村 洋平	海洋生物生産学コース	魚類生息場の機能解明、海産魚類の生態
准教授	深田 陽久	海洋生物生産学コース	魚類の食欲・消化・成長に関する研究、ブランド養殖魚の開発
准教授	山口 晴生	海洋生物生産学コース	海洋植物プランクトンに関する研究、内湾赤潮の解明
講師	今城 雅之	海洋生物生産学コース	魚類の病原微生物(ウイルス、細菌、寄生虫)に関する研究

### 海底資源環境学コース

教授	上田 忠治	新規金属錯体の合成および酸化還元反応解析
教授	岡村 慶	海底鉱床探査のための現場型化学センサ開発
教授	村山 雅史	海洋の物質循環と海底資源形成に関する研究
教授	寄高 博行	海洋表層流の変動に関する研究
准教授	西尾 嘉朗	化学を用いた地球の謎(海底資源成因や地震火山機構等)の解明
准教授	野口 拓郎	海底熱水活動に伴う有用金属・有害金属の動態解明
助教	長谷川拓哉	機能性無機材料の開発と新機能付与

### 海洋生命科学コース

教授	久保田 賢	造礁サンゴなどの海洋生物のタンパク質や遺伝子に関する研究
教授	津田 正史	海洋微細藻からの有用物質の探索と開発、およびDNP-NMR研究
教授	長崎 慶三	海洋生態系におけるウイルスの役割と存在意義に関する研究
教授	深見 公雄	海洋微生物の生理・生態とその働きを利用した環境保全・修復
准教授	金野 大助	有機反応化学および量子化学計算による分子構造・反応解析
准教授	櫻井 哲也	藻類等の生命情報を網羅的に用いた比較解析によるゲノム研究
准教授	寺本 真紀	有益な物質の生産や環境浄化にむけた有益な微生物の探索・構築
准教授	難波 卓司	海洋生物が産生する化合物の薬理作用の探索と真核細胞の恒常性維持機構の解析
准教授	三浦 収	海産無脊椎動物の生態と進化の研究
准教授	山田 和彦	次世代型NMR装置の開発
助教	小野寺 健一	海洋共生微細藻を大量に培養し未利用物質資源を探索する研究
助教	Dana Ulanova	海洋資源科学科 海洋微生物の二次代謝産物生合成研究

### 平成29年4月理工学部異動

教授	笹原 克夫	自然環境学コース	降雨による斜面崩壊発生メカニズム、深層崩壊の発生予測
教授	原 忠	流域環境工学コース	液状化や斜面崩壊などの地盤災害と地震防災に関する工学的研究
講師	野口 昌宏	森林科学コース	中・大規模木質構造や木質部材の開発、木造住宅の地震防災に関する研究

## 高知ならではの成長

農芸化学科1年生 高橋 知也

私が高知大学の農林海洋科学部農芸化学科を知ったのは高校3年の春だ。それは、小学校、中学校、高校とずっと同じ学校へ通い、良くして頂いていた近所の1つ上の先輩の入学を知ったからだ。とても学部・学科名が長かったのが特に印象に残り、普通の農学部とは違うのだなと感じていた。そして、それから大学案内のパンフレット・先輩との連絡のやり取りなどで大学について深く知っていく中で、より興味関心が深まり自分のやりたいことを学べる大学でもあったため受験を決めた。

高知大学の農林海洋科学部農芸化学科で良かったと思う点は、いくつもあるがやはり1番はFS(フィールドサイエンス)実習による高知大学・高知県ならではの貴重な見学・体験を行える点である。物部キャンパス内の畑によるハウス栽培の見学・物部キャンパス内の広大な田んぼを使用しての田植え実習をはじめ、高知県内の酒造・植物園・馬路村・鍾乳洞など様々な農芸化学と関わりのある場所での見学・体験学習を行うことが1年生のうちからできた。この経験により農芸化学の社会での活用のされ方を様々な分野から学ぶことができ、自分が将来目指すべき方向を大まかではあるが、考えていくきっかけになった。

また、高知大学よさこいサークルに所属し、本場の高知の祭りを踊る立場からも感じる事が出来たのは貴重な経験になった。

さらにアルバイトでは、日曜市に毎週出ている農園で働かせてもらうことができ、高知が収穫量日本1の生姜を植えるところから収穫するところまで体験をさせていただけた。このことも他県の大学に行っていたら普通は経験のできなかつた貴重な体験であったと考える。

朝倉キャンパスにも慣れてきて、サークルなどの繋がりの中で他学部の友達もたくさんできた。しかし、2年生からはキャンパスが朝倉から物部へと移るため、他学部の友達とは会いにくくなる。環境が変わるため正直、不安もあるが広大な農林海洋科学部専用の畑・田んぼなどを存分に利用し、興味のある内容を学んでいくことができるためとても楽しみでもある。縁があり、せっかく高知に来たのだから今しかできない、高知でしかできない経験をこれからもどんどんチャレンジし、成長し続けていきたい。

朝倉キャンパスにも慣れてきて、サークルなどの繋がりの中で他学部の友達もたくさんできた。しかし、2年生からはキャンパスが朝倉から物部へと移るため、他学部の友達とは会いにくくなる。環境が変わるため正直、不安もあるが広大な農林海洋科学部専用の畑・田んぼなどを存分に利用し、興味のある内容を学んでいくことができるためとても楽しみでもある。縁があり、せっかく高知に来たのだから今しかできない、高知でしかできない経験をこれからもどんどんチャレンジし、成長し続けていきたい。

## わたし、こんなことしてんねん!

農林資源環境科学科

暖地農学主専攻領域2年生 小島 歩未

お兄ちゃん、お姉ちゃんの後を追って入った高校、選んだ文系の道。私の前には、いつも道ができてました。3人兄弟の末っ子で、いつも兄と姉と同じような道を進んできたように思います。そんな私が初めて自分で、自分の道を作ったのが高知大学に来たことでした。「農学部にいきたい!」そう思ったのに、私がいたのは文系クラス。何も考えずに、できた道を通ってきたことを初めて後悔し、壁にぶち当たりました。けれど、そこから私の道づくりのスタート。独学で専門理科学科目を学び、誰にも分ってもらえない不安と闘いながら、受験生活を送りました。念願の高知大学に合格し、初めて親元を離れることになった私ですが、自分で作り始めた道を進んでいくのが楽しみでワクワクで堪りませんでした。

高知大学に入学し、サークル紹介が行われたとき、私の心を奪うサークルに出会いました。それが、“学生ボランティア団体MB”です。兵庫



県出身の私は、棚田が広がる大豊町での活動が、非日常で新鮮でどっぷりとハマりました。可愛がってくれる先輩や地域の方が大好きになり、毎週通うようになりました。

MBでは主にシャクヤクを栽培したり、地きび焼酎を作っています。自分が育てたものが商品になり販売される、こんな経験はめったにできることではありません。テストの点数が良い、試合の成績が良い!などの喜びではなく、畝がきれいなたてられた、野菜が立派に育った、などに喜びを感じるようになりました。私はすっかり農業の虜です。

また、私はテニスサークルにも所属しており、今年の夏からは水泳部にも少し参加されています。大学は、「やりたいことができる」ところです。自分が興味のあることになんでもチャレンジできるところです。

今まで、選んできたようでただ流されて生活してきたことが、身に染みて感じるくらい今私は自分で自分の道を歩いています。「わたしはこんなことしてんねん!」と、誰にでも胸を張って言えるほど、充実しキラキラと輝く大学生活を送っています。今が一番自分らしく生きていると思います。

大学に何不自由なく通わせてくれている親と、大学で私を支えてくれているたくさんの方々に感謝の気持ちを忘れず、これからも自分らしく大学生活を楽しみたいと思います。



## リスタート

農林資源環境科学科  
自然環境学主専攻領域2年生 芋田 直也

もうすぐ私が物部キャンパスにきて1年が過ぎようとしています。このことに私はとても驚いています。というのも部活に学校行事、センター試験に大学入試とがむしやらに高校生活を送っていた自分が新天地である高知にきて早2年、そして大学生活も半分を終えようとしているということに驚いています。高知大学にきて2年あつという間に感じますが、この2年間で色々なことを経験しました。キャンパスの移動や主専攻副専攻領域の決定と私の中での高知大での大学生活は何度もリスタートしているなどと思います。

まずは1年次の朝倉キャンパスでの生活です。そもそも一人暮らしというものも初めてであり、不安もある中大新生活がスタートしました。しかし、サークル活動や農林資源環境科学科として授業や実習を一緒に受ける機会も多く顔見知りとはまた友達へとなり、楽しい朝倉キャンパスでの大学生活となりました。また、基本的な農学、農業の知識を大学基礎論やFS実習などで培うことができ、2年次からの物部キャンパスでの授業や実習に役立てたと今では思います。

初めてづくしであった朝倉キャンパスでの生活にやっと慣れてきたと思いきや、物部キャンパスに引越し、いよいよ物部キャンパスで本格的に農林海洋科学部としての大学生活が幕を開けました。しかし私たち農林資源環境科学科は2年の後期から領域(コース) 分属するので2年の前期は1年次のように幅広い農業や環境、自然について学びました。それと同時に物部キャンパスの農場での実習が始まりました。本当に畑の整備や農作物の管理を毎週行い、自分たち専用の圃場を持ち、高校の時に見た高知大学農林海洋科

学部のパンフレットに載ってあったとおりの実習でした。広大な農場がキャンパス敷地内にあり、そこで植物や昆虫などの自然と触れ合い学べるのは高知大学農林海洋科学部の魅力なんだと改めて実感しました。

2年の前期が終わり、夏休みに主専攻領域が決まり自然環境学領域主専攻として後期授業がスタートしました。領域の専門科目を学び、自然環境学領域の実習では実験室での実験のほか、手結海岸、牧野植物園、のいち動物公園、農業技術センターなど高知県内にある自然を学べる施設に赴く楽しさもあり、貴重な体験をしました。領域が決まり、実験や実習が増え、大学生生活はこれからだとも感じました。充実した大学生活を送るとともに、動物、植物、昆虫、気象など自然環境学というカテゴリーの中には様々な分野があるので、研究室配属や卒業論文を見据えて自分の興味関心を引くものを見つけるために色々なことを吸収しどん欲に学んでいきたいと思っています。

## 伝える視点

農林資源環境科学科  
森林科学主専攻領域2年生 中村 知道

私はボランティアで小学生に森林について教えています。子供達と接していると子供達にとって森林があまり身近なものではないのだと感じることがあります。例えば、子供達に花を見せるとします。これは何でしょう?と聞けば、「チューリップ!タンポポ!」とある程度は名前が出てきます。しかし、樹木はどうでしょうか?これは?と聞けば、これも葉っぱ。それも葉っぱ。あれも葉っぱ。どの葉も同じ答えが返ってくるのがほとんどです。森林には水を蓄え、土砂災害を防止

するなど大切な役割が数多くあります。この大切な森林を守るには、まず多くの人に森林を身近に感じてもらう必要があると私は考えています。

人に伝えるにはまず自分が学ばなくてはなりません。大学では林業の現状を学ぶ機会が多くあります。現状の林業には課題が多く、林業従事者の高齢化や新規就業者不足、木材需要の低下、材木価格の下落など挙げればきりがありません。講義では林業の未来について話されることはあまり無く、気づかないうちに林業の問題点ばかり刷り込まれていたのでしょうか。私はそのうち林業には未来がないのでは?と考えるようになっていました。そんな中、実習で林業機械の展示会に行く機会がありました。開発中の測量システムや、重量物の輸送用ドローンなど、製品化されていない物も数多くあり、開発者は自身の開発物について熱く語っていました。それを見ていると「林業をより良い産業にしようと、これだけ多くの人達が日々新技術を開発しているんだ!」と胸が熱くなり、林業の明るい未来が見えたような気がしました。そこで私は気が付きました。大学という一点から物事を見てはいけなと。企業、公共機関、大学、一般、児童、様々な視点から見ること、ようやく物事の一部が見えてくるのだと。そのことに気づいた私はもっと積極的に大学の外へ出て学ばなくてはならないと感じました。

大学で学び、外でも学び、最後には人に伝える。このサイクルが学生の今だからこそ出来るのではないのでしょうか。そして大学には多くの仲間がいます。私とは違う考え方をする仲間は頼もしく、多くのことに気づかせてくれます。そんな仲間達も巻き込み森林の教育普及活動をしていく、想像するだけでも楽しい。残り半分となった学生生活ですが、いつも見守ってくださる地域の方々や家族への感謝の気持ちを持って、仲間とともに目標に向けて頑張っていきたいと思っています。

## 今の私

農林資源環境科学科  
生産環境学主専攻領域2年生 橋本千裕

大学生生活も2年が終わろうとしています。1年時は朝倉のキャンパスで一般教養を受けていました。たくさんの人と大きな講義室での座学が多い中、3度だけ行われたフィールドサイエンス実習では、演習林に行ったり、物部キャンパスへ行き田植えをしたりと、とても楽しく印象的で、物部キャンパスに移るのがとても楽しみでした。

2年生になり、キャンパスが変わりました。それと同時に多くの人々が引っ越しをしました。寮に住んでいた私は、同じ寮ですぐに会えるところにいた友達や、近くに住む友達と離れてしまい、今、少し寂しい気持ちもあります。しかしそれぞれ自分だけの部屋を持ち、車を持ち始め、自炊をしたり、掃除をしたり、生活力が格段にアップしたと思います。大学生生活は勉強をするだけでなく、勉強以外にも多くのことを学ぶことができる期間であることを改めて実感しています。キャンパスが変わり学業ももちろん、より楽しいものになりました。特に毎週行われていた農場実習はとても楽しかったです。自分の区画を与えてもらい、野菜を育てたり、稲穂の成長段階ごとの観察や果樹栽培をしたり、花卉、あか牛の畜舎管理など農業に関する様々な実習をしました。動物や植物が大好きな私にとってとても生き生きと楽しい時間でした。

2回生の後期には正式なコース分属がなされ、今は、生産環境管理学コースの一期生として、水の流れに関する力学を学ぶ水理学や、水の性質、成分、水環境を学ぶ水質学、コンクリートの性質や構造物などについて学ぶ材料学などを中心に日々実験やレポートなどに励んでいます。大変ではありますが、学外にでて実際に水を採取し、

実験をさせてもらったり、たくさんの実験器具、薬品、試料や資源を使わせてもらえたりすることは非常にありがたいことだと思います。また、この充実した学習環境にとっても満足しています。さらに、私の所属するコースでは、同じコースの人たちと少人数で授業や実験を進めていくため、すぐに仲が深まり、毎日楽しい雰囲気の中で学習ができています。

もうすぐ2年生が終わり、3年生になろうとしています。そろそろ研究室や就職のことも考えていかなければなりません。不安もありますが、自分らしく明るく楽しく好きなことを追求できるように努めていければと思います。



## 大学生になって

農芸化学科2年生 澤田真緒

高知大学に入学してから早二年たち、もうすぐ三年生になります。そんな私が大学生になるとどんなことを学べるのか、という問いに対して専門的な勉学を学べるのはもちろんですが、それ以上に他人との関わりではないかと思っています。

大学に入って、いい刺激を受けることができたと感じた物事の中に、数人のチームを組んでグループディスカッションし、最終的に発表するという授業があります。農林海洋科学部の中で他の



学科の生徒たちと話し合ったのはとてもいい機会になったと思います。他の人の意見を聞き、自分の思ったこともぶつけて一緒に考えながら発表に向けて進めていくことに加え、他学科の生徒ならではの知識や考え方に触れるのはとても有意義で楽しかったです。一人で調べて考えてるのよりよほど画期的でかつチームワークを学ぶのに非常に役立った授業だったと思います。

またサークル活動については、大学に入ったら音楽系のサークルに入りたいと考えていたので軽音楽部に入りました。初めて触る楽器を先輩や友人に教えてもらいながら練習したり、ライブに出て周りの人たちに上手になったと褒められるのはとても達成感があります。そして部員の皆と話していて感じたのは、高校までと違いここには本当にそのことが大好きな人たちだけがサークルに集まってくるのだという事で、真剣に取り組む本当に音楽が好きな皆のことを尊敬しています。そして自分ももっと練習して認められたいと意欲が湧きとてもいい刺激を受けられるし、サークルに入ってよかったと思います。

二年生になると、物部キャンパスに移り、一年生のときは違い専門的な授業ばかりになり勉強が大変になりました。後期からは先輩たちに教えてもらいながらの実験も始まり、日々実験の予習とレポートに追われるようになりましたが一方でやる気も感じる事ができるし、新しいことをどんどん身につけられているとはっきり感じる事ができました。

来年から三年生になり、研究室分属も決めなくてはいけない大事な学年です。今まで学んだこと・これから学ぶことも精一杯吸収して、充実した大学生生活だったと卒業してからも胸を張れるよう過ごしていきたいです。

## 大学生活

海洋資源科学科

海洋生物生産学コース2年生 高松 夏幹

私は高知大学に入学して色々なことを経験した。中でも3つのことが特に印象に残っている。

1つ目はシドニーに行ったことである。私は1年生夏休みに大学生協のシドニーツアーに参加した。はじめての海外でワクワクしていたのを覚えている。自分の下手くそな英語でも意外と現地の人とコミュニケーションをとることができ、自信を持つことができた。またそのツアーでは他の大学の生徒と交流することができ、新鮮であった。

2つ目はよさこいである。1年の春、先輩たちのキレのあるかっこいい踊りに魅了されて、高知大学のよさこいチームに入った。1年目は踊り子として2年目はチームのインストラクターとしてよさこい祭りに参加し、高知の町中を踊り歩いた。高知の街がよさこい一色になる本祭は非常に楽しく、魅力的であった。

3つ目はバイクである。2年目から通う物部キャンパスは街から離れており、交通の便が悪いため車等がないと通うのが難しい。私は1年の頃、先輩や友達の影響でバイクに興味を持ち、自分も乗りたいと思い、バイク代を必死に貯めて2年生の春に中型バイクを購入し、バイクで大学に通うようになった。通学以外にも暇さえあればバイクでどこかに走りに行った。今までの自転車だと遠くて行きづらかったところもバイクだと簡単に行くことができる。利便性は車には劣るが、かっこいいし楽しいから問題ない。しかし、雨の日や寒いバイクは思っていた以上に過酷で今まで以上に冬と雨が嫌いになった。

このような楽しい大学生活も半分が終わろうとしている。残りの半分も色々な事を経験し、卒業する時に良い大学生活だったと思えるようにしたい。



## 有意義な大学生活を！

海洋資源科学科  
海底資源環境学コース2年生 中島 千晶

私が高知大学に入学し、たくさんの仲間と出会ってから、早くも2年という歳月が流れようとしています。地元高知県とは言え、生まれ育った土地を離れて生活を始めると、自分がいかに多くの方々を支えられてここまで来られたかがよくわかります。その中で、「大学生活は楽しいぞ。」と高校時代の生物の先生がおっしゃってくださった言葉を思い出し、今私も、まさにその通りだなと実感しています。

入学当初の私は、大学とは、受け身の講義ばかりでなく、ディスカッションやグループワークなど、話し合ったり議論をしたりすることが多い場であると想像していました。もちろん自分もそうするつもりでいたのですが…。しかし、いざ議論となった時に、事柄を理解できるレベルまで自分の知識が足りていないことや、相手を納得させられるだけの説明ができないこと、聞いた話を多方向に繋げ、話題を膨らませたりするのに様々な事例、事象を知らなさ過ぎることなどが浮き彫りになってきました。これを打破するのに、多様な分野の触りが学べる「共通教育」は大変役立ちました。現在学んでいる専門分野にも通じることがいくつかあり、その度意外な繋がりに気付かされます。

私は女子寮に住んでいるのですが、同回生や先輩方と、話し合いをする機会が多くなりました。話す内容は、ゼミ・研究室の話、今興味があって調べている分野、社会問題や将来のことなどです。私は海底資源について学んでいますが、人文系や国際系について学んでいる人たちと話し合いをすることによって、様々な問題点を異なる角度から話し合うことができるため、とても面

白いと感じています。先輩方からは、就活や卒論作成・発表、学芸員や教職免許についてのお話を伺うことができ、とても参考にさせて頂いています。

11月の終わり頃、縁あって、地球科学について学ばれた方とお話をすることができました。「大学生という今を有意義に使うことが大切。」その方がおっしゃってくださった言葉なのですが、大学内外関係なく、やりたいと思ったことはどんどん聞いて許可を取るべきであるということでした。そうすることで視野が広がるだけでなく、様々な経験ができることにも繋がるためです。

最近の私は、専門の講義についていくのに必死だったり、課題に追われていたりとてもやわんやしているのが現状です。これらと上手く付き合いつつ、自ら積極的に行動し、少しでも得られるものが多い「有意義な大学生活」を送ってきたいです。

## 新たな発見

海洋資源科学科  
海洋生命科学コース2年生 清田 修平

およそ2年前、2016年の3月私の胸は大学生活への希望でいっぱいでした。長く苦しい受験を終え、4月からの新生活が楽しみで仕方なかったのです。これまでとは異なった環境、生活、授業に、全く想像はつきませんでした。「友達がたくさんできて楽しいキャンパスライフが送れるといいなあ。」とぼんやり思っていました。

しかし、入学してから2か月ほどたった頃、私はあることに気付いてしまいます。友達がいない！

授業での自己紹介や、休み時間のお喋りでも積極的に話すよう努めましたが、どうも周りの人と打ち解けることが出来ませんでした。そんな時、

私はある軽音サークルに入りました。

そのサークルに関して、正直私は良い噂を聞いたことがなかったのですが、先輩に誘われ泣く泣く入ってみると私にとっては夢のような空間が広がっていました。私は中学生の頃から趣味でエレキベースを弾いていたのですが、楽器を始めると、それまでよりずっと音楽が好きになり、以前と比べて多くのミュージシャンの曲を聴くようになりました。しかしそれと同時に、音楽の話ができる友達が減りました。そんな僕にとってこのサークルは、まさに天国でした。これまでできなかった音楽の話ができるだけでとても幸せだったのですが、それだけでなく、僕にとって新しい音楽や、楽器の奏法なども沢山教えてもらえたことも大変嬉しかったです。

サークルの先輩方とのつながりで、医学部や学外にも音楽仲間ができました。その中には社会人も、高校生もいます。こうして僕の高知での生活はたくさんの友人や先輩に囲まれ、今ではとても充実したものになっています。

音楽を通じて、サークル活動を通じて、大学生活を通じて、人と関わる中で最も強く感じることは、いろんな人がいる、ということです。高校生の時には、はっきりと気付きませんでしたでしたが、大学に入り、たくさんの人とふれあい、本当にいろんな人がいるのだとつくづく感じさせられます。また、自分には無い価値観を持った人と話すのはとても面白いです。会話の中には新しい発見がいくつもあり、「こういう考え方もあるのか」と自分の視野を広げることが出来るからです。これからはサークル関係の人だけでなく、同級生や先生方などもっともっとたくさんの人に出会い面白い発見をたくさんしたいです。

## 研究室分属

暖地農学コース3年生 岡田 朋也

3回生の前期の終わり頃に研究室分属があった。周りのみんなは行きたい研究室が決まっています、各自その研究室の先生と面談をし、どの研究室に分属願いを出すか決めていた。しかし、自分は特別ここに行きたいといった研究室がなく、枠の余った研究室に分属されることになった。自分がイネ科の花粉症であるため、イネの研究をしている研究室だけは嫌かなと思っていたのだが、イネの研究をしているところに行くこととなった。教授と面談することになり、「自分イネ科の花粉症なんですよ」と伝えると、「俺もだ」と返されて笑ってしまった。研究室には同期の人がなくて、先輩が二人とネパールからの留学生が二人いる。同期の人がなくて心配であったが、そんな心配は全く必要なく、先輩も留学生の方にもよくしてもらっている。研究室内の会話は基本日本語であるが、留学生の方が会話に入る時は英語も混ざって来るので、会話についていけないこともあるが、勉強になっている。留学生同士が話している時は向こうの言葉で話しているのが全くわからないのが少し悲しい。研究室で行う作業は、籾の長さや幅をノギスで一つひとつ測ったり、イネの大きさや硬さを測っている。大学の一日公開では、品種改良をして色を白くした観賞用イネや、畑で育てていた「安納芋」、「紅はるか」、「赤芽」を販売した。イネの研究室なのでイネの栽培しか行っていないと思っていたのだが、毎年の一公開のために畑でサツマイモとサトイモを栽培しているのだ。他の研究室では、果樹では様々な果樹を、野菜では様々な野菜を、花卉では様々な花を栽培するが、イネはイネだけしかしないかな、ちょっと残念だなと思っていたので、イネ以外の作物も栽培

できると知り安心した。今はその「安納芋」の苗を、来年のために自宅の出窓で栽培し続けている。最近では研究に使い終わった水田の片づけを行った。草刈り機で草を刈っていくのは楽であったが、その後に藁を熊手でかき集め、自分の背ぐらいある大きな袋に詰めていくのだが、この作業がなかなか苦痛であった。久しぶりの運動であったこともあるが、筋肉痛になってしまった。とはいえ農作業をきちんと学ぶことができる良い研究室だなと感じた。来年は植付けから全ての栽培をやっているから、今から楽しみである。

## 高知大学農学部で得たこと

暖地農学コース4年生 西谷 桃子

私は、「今まで経験したことのない、大学生だからこそできることをしたい!」という思いを胸に、高知大学農学部に入學しました。入學からほぼ4年経った今、思うのは、高知大学は私の夢を叶える最高の学び舎でした。

学びたいという姿勢を持つ学生に対しては、門戸は広く開かれています。私は、大学1回生のとき、ある授業をきっかけに、中山間地域での生活について興味を持ちました。2回生のとき、高知県大豊町をフィールドとした実習授業で、中山間地域での生活を自らが体験し、学ぶことができました。この実習は、自分たちで考えながら、農作物の栽培から加工・販売を行うというものでした。栽培方法について調べ、それでも分からない場合には地域の方に直接伺いました。平地との自然環境の違いから苦勞することもありましたが、地域の方の支えにより、無事収穫することができました。

また、高知大学で過ごした4年間で多くの人との繋がりを得ることができました。友人や先生は

もちろん、高知県大豊町の住民の方、研究でお世話になった職員の方などと出会うことができ、多くの方の支えで学びを得たことを実感します。高校時代までのような学校という枠だけではなく、地域の方や立場の違う方と出会うことで、自分の考えに広がりが生まれました。もちろん、友人や先輩、後輩と過ごした時間は、本当に楽しかったです。例えば、農学部の学園祭である一日公開に、研究室のメンバーで「きりたんぼ」を販売したことは、大変印象に残っています。準備は大変でしたが、チームのように完売という目標に向かって努力した経験はとても思い出に残るものでした。他にも、ここだけでは語り尽くすことができないほどの楽しい経験があります。

高知大学で得たことは、教科書に載っていることだけではありません。自らが問題点を見つけ、解決策を探る姿勢を得ることができました。また、大学生活で得た人との繋がりは、かけがえのないものであり、私の一生の財産です。この4年間でなければ、「自ら考え、行動する姿勢」と今ある「人との繋がり」はなかったと思います。だからこそ、高知大学農学部で勉強できたことを誇りに思います。学生生活で得たことを胸に、4月からは社会人として今以上に努力したいと考えています。



## やってみないと分からない

自然環境学コース3年生 田中結菜

高知大学に入学して3年という月日が流れ、大学生生活も残すところあと1年となりました。

大学1年生のころは、地元を離れて初めての一人暮らしや、見知らぬ土地・人、高校生までとは違った授業形態といった新しい環境に慣れることに必死でした。不慣れなパソコンでシラバスとにらめっこをしながら履修登録をし、最初の授業では分からないことだらけで、とてもそわそわした気持ちで一週間を過ごしたことをよく覚えています。そんな新しい生活に慣れてきたころ2年生になり、キャンパスが朝倉から物部に移って今まで関わる機会が少なかった先輩方も、実習などを通して関わるが多くなりました。

私は現在、自然環境学コースに所属していますが、このコースを選択してよかったと思うことは、先輩や先生方との距離が近いことと、実習を通して幅広い分野について学べるということです。自然環境学コースでは、室戸や演習林での宿泊実習があり、大学院生も含めた先輩方も参加していたので、それぞれの研究についてはもちろん、日々の授業や遊びなど様々な話を聞くことができ、先輩との距離を縮めるのにとってもいい機会になったと感じています。実習では、先輩だけでなく先生方との距離もとても近いので、疑問に思ったことや気になったことがあってもすぐに解消することができ、それぞれの研究分野での異なる奥深さに触れることができたと思います。また、私はコースに所属したてのころ、特にこれについて研究がしたいというものが無かったため、3年生での研究室分属に対して不安がありました。実習をしていくなかで興味のある分野を新たに発見することが多くあり、今まで見えなかった自分の一面に気づくことができました。面



白いと感じるかは実際にやってみないとわからないので、様々な分野に触れることができたのはとても良かったと感じています。

3年生になった今では、砂防学の研究室に所属して、自然環境学実習の時よりも本格的な実験をしています。実験に使う器具や手順なども複雑になってきて、なかなか思った通りの数値が出ないこともあり、難しいと感じることも多いですが、試行錯誤して予想通りの結果が得られた時にはとても達成感があります。

まだまだ新しく学ぶことがたくさんあるので、これからもできるだけ多くのことを吸収しながら、残りの大学生活を充実したものにしていきたいと思います。

## 大学生活を振り返って

自然環境学コース4年生 水口知洋

早いものでもうすぐ大学生活が終わろうとしています。入学前に長いと感じていた4年という時間も卒業を控えた今ではあっという間に過ぎていったと感じています。振り返ってみると、私の大学生活は大きく「1年生～3年生」、「4年生」の2つに分けられることに気がつきました。

「1～3年生」までは大学で授業を受け、バイトをし、遊ぶといった生活を送っていました。大学生ならではの自由な時間を活かしサークル活動をすることや、バイトでお金を貯め、趣味の旅行や、釣りをしながら過ごしていました。そして3年生の後期には研究室の所属が決まり、私は志望していた昆虫生態学研究室に配属されました。

「4年生」になってからは本格的な研究が始まりました。研究が始まるとそれまでの生活が大きく変わりました。もっとも大きな変化は大学にいる時間が増えたことです。この変化は私の生活

を「1～3年生」までのバイト、遊び中心の生活から、大学中心の生活へと大きく変えました。私は研究室でハダニの研究をしており、研究材料であるハダニを飼育しています。そして、私が飼育しているハダニは毎日の水やりと、定期的な餌交換をしなければ死んでしまいます。そのためハダニの世話が毎日あります。もしかしたら私の生活は大学中心の生活というよりも、ハダニ中心の生活のほうが適当なのかもしれません。そんなハダニ中心の生活も終わりに近づいています。ハダニ達の世話から解放され、すがすがしい気持ちと共に一抹のさみしさがあることに気が付きました。3年生の11月から一年以上も飼育し続けたハダニ達は、気が付かないうちに私の中で大きな存在となっていました。飼育を始めた頃はなんとも思わなかったハダニ達も、長く世話をしていると愛着がわくのだと実感しました。

また変わったのは生活だけではありませんでした。ただ授業を聞いてレポートやテストの結果で一喜一憂していた「1～3年生」までとは違い、「4年生」からは自発的に考え、研究していくといった学びを実感しました。そして研究する楽しさを知りました。この楽しさは「1～3年生」から「4年生」への学びの変化なしでは得られなかったと思います。そして、この楽しさを知ることができたのは本当に良かったと感じています。

来年度から私は「4年生」を卒業し「社会人」となります。次はどんな変化が待っているのか今から楽しみです。

## 水を得た魚

森林科学コース3年生 浅野 峻

私は、今年の春に三年次編入で高知大学に入

学しました。入学する前は、人間関係が出来上がっている中に入っていくことに不安を持っていました。しかし、入学してみると森林コースのみんなは快く編入生を受け入れてくれました。森林コースでは、実習で森林の中で何泊も泊まる事があります。長い実習だと一週間近く演習林で実習することもありました。その間、コースの人達とずっと行動を共にします。なので、実習を重ねるごとにみんなの優しさや性格がわかってきました。最初の頃はこの実習が、ネットも使えない最悪な環境だと思っていました。でも、最後の三年生メンバーでの実習では、またやりたいと思える程楽しく感じていました。

高知大学に入学する前は専門学校で学んでいました。なので、大学というものが初めてでした。大学は、専門学校と違い自由な時間が多いです。この自由な時間と高知県という自然に恵まれた環境を生かして色々な事をしました。

キャンプやラフティング、海水浴などをし、夏期休暇には高知大学の交換留学でマレーシアに10日間程行きました。費用は破格の9万円くらいで国立万歳と心から思いました。マレーシアでは、現地の大学生と共に過ごしました。そのため、実際の彼等の暮らしを体験する事が出来ました。現地が一番驚いた事は、動物が身近な存在だということです。大学内を散歩しているとリスが普通にいました。さらに、猿や小さな川には、1.5m程の大きなトカゲが泳いでいました。ホームステイをした時に、ベッドの中から巨大なムカデみたいなのが出てきました。その時は、正直日本に帰りたかったです。マレーシアの人達は英語も話せます。

私は、とても英語が苦手なのでコミュニケーションでは苦労しました。しかし、得意のマジックやギャグで仲良くなることができました。ここでは、言葉が通じなくても仲良くなる事ができる英

語よりも大切な事を学びました。

12月に入り、今度は留学生の受け入れを行いました。この時にマレーシアで学んだ事を上手く活かすことができました。

私にとってこの国際交流は良い経験であり、大きく影響されました。このような機会を与えてくれた高知大学には、とても感謝しています。そろそろ就活が始まりますが、それも良い経験とポジティブに捉えて楽しんでやろうと思います。

## 大学生活を振り返って

森林科学コース4年生 竹嶋 一紗

本格的に寒くなってきた今日この頃。あと数か月で大学を卒業になります。改めて振り返ってみると短い4年間でした。

1回生の時は朝倉で基礎的な知識を、2回生からは物部へ移り専門的な知識を学んでいきました。座学だけでなく実技を交えた講義は、自分が理解しているようで理解していない部分を把握でき、樹木学実習や演習林実習の中では実際に触れ、動くことで気付く学びもありました。

その中で特に記憶に残っているのはやはり演習林実習です。演習林の宿舎に泊まり込み、植樹や下刈りなどの保育作業、測量実習を行いました。地拵えでの枯れ枝の整理や植樹用の穴掘りなど力作業も多く、それに加えて斜面の上り下りで体力のなかった私は実習が終わり宿舎に帰ってくる頃にはもうへとへとでした。測量実習は基本的に班活動です。それぞれ役割を分担して測量を行います。自分が測量する際は誤差が出ないかととても緊張しました。

他では同期の誘いでトレランのボランティアスタッフに参加しました。会場の準備、当日はランナーの誘導を行いました。また、一度だけです

が宿舎での賄いバイトの経験もさせていただきました。二つとも慣れないことばかりで行動もたつき、不甲斐ないと感じる場面もありました。それでも、「ありがとう。」と感謝の言葉をかけてもらったときには「ああ、やってよかったな。」と感じました。学外の方や他学年との交流もできた貴重な体験でした。

現在、卒業論文の作成に追われている身です。私は損傷木の事後経過に関する調査を行っています。現地調査、データの整理などやることが多くててんこ舞いです。必要なデータは何か、どのようにまとめればいいのか。分からないことがほとんどですが、先生から指導を受けながら少しずつ進めています。

来年、私は大学院に進みます。就職と悩みましたが、もう少し研究を続けたいという思いから進学を選びました。2年間という短い期間ですが、大学で積み重ねたことを活かして研究に取り組んでいこうと思います。

最後になりますが、大学生活はあっという間です。後悔のない様、興味を持ったことには何でも挑戦してみてください。

## 夢の実現に向けた私の誓い

流域環境工学コース3年生 金子 寛

私の所属する流域環境工学コースでは、構造力学、水理学、土質力学の3力を始め、測量学、環境材料学、土壌環境物理学、環境水質学、環境管理評価学など環境配慮型の農業土木学を学んでいます。また、JABEE 認定教育プログラムが導入されているため、卒業と同時に国家資格である技術士補相当の修習技術士と測量士補を取得できるのが特徴です。その一環で、他

のコースに比べて頻繁に就職説明会が開催されており、専門分野を活かすためのキャリア教育として環境工学実習が課されています。ここでは、今夏履修した環境工学実習について述べたいと思います。

岐阜県出身の私は、8月21日から9月1日までの10日間、岐阜県庁農地整備課と岐阜農林事務所にてインターンシップ実習を体験してきました。前半の本庁での実習はデスクワーク中心でした。内容としては、「岐阜県農業農村整備2017」(パンフレット)の作成、ストックマネジメント GIS 作業、予算要求作成業務に携わりました。予算要求作成業務とは、与えられた資料をもとに平成30年度の予算を組み込んでいく作業のことですが、実際に作業をしてみると、資料に記載されている予算額と自分が組み込んだ予算額がなかなか一致せず、とても苦労しました。

後半の岐阜農林事務所では、羽島用水地区ポンプ場・揖斐管内農業用排水機場・貝原棚田の見学、および東沖地区にて測量実習と積算業務を行いました。排水機場の見学では、一連の工程を説明していただきましたが、授業でも学習をしていたためより深く理解することができました。また、室内作業として体験させていただいた積算業務は、本庁での予算要求作成業務とはまた違った難しさがあり、容易には理解し難いところが多々ありました。

今回の10日間の実習を通して、大学で学んだことがそのまま生かされている部分も多くあることが分かり、進路を考える上でたいへん貴重な体験を積むことができました。しかし、公務員は行政に関する知識も求められるので、就職してからも多くのことを学び続けなければいけないと強く感じました。また、自分の知識の少なさも痛感したので、これから就職に向けて勉学に励み、不足しているところを積極的に補っていきたいと思います。

## 勇往邁進

流域環境工学コース4年生 大數賀 俊昂

大学生活も残すところ3ヶ月を切ろうとしています。肌を突き刺すような寒さを感じるこの時期を迎え、ようやく「もうすぐ卒業する」といった意識が芽生えてきました。これまで3年8ヶ月の学生生活の印象としては、小・中・高校時代とは違い、とても自由度が高い日々だったと感じています。空き時間が多く、様々なことに挑戦する機会を作ることができたため、学業、部活動、アルバイトなど、それぞれの場で関心を持ったことに挑戦し、そこで多くの失敗とほんの少しの成功を経験することができました。

今は態度も体も大きな私ですが、大学入学時は自分を主張することがとても苦手で、たびたび周りの友人や先輩方に流されながら生活していました。学年が上がるとともに学業、部活動、アルバイトを通して多くの方々と関わっていく中で、次第に自分の意見を持てるようになっていっているのかなと感じてはいました。特に、香川県職員（農業土木職）を目指した就職活動では、自分の意見がある程度、主張できていることに気づき、この4年間で最も成長していることの一つだと自覚できました。

現在は、卒業論文作成のために、農業水利施設の維持管理に関する研究に取り組んでいます。実際に現場の意見を取り入れたいと考え、農業従事者の方にヒアリングを行う機会が何度かありました。当初は自分の考えを相手に説明することに苦労しましたが、回数を重ねていくうちに、別の切り口で伝えることができれば相手の理解が深められるということが分かりました。これまで、いかに狭い範囲内でしか物事を考えていなかったのか痛感させられました。社会人として働いていくうえで自分の意見の主張は大切

だと思うので、今後もさらに磨いていきたいと考えています。

最後になりましたが、大学に行きたいと言った高3のあの日から今日まで多くの迷惑をかけ続けてきた家族や、学校生活で多く助けられた友人たち、学業以外にも様々なことを教えてくださった先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。まだまだ未熟者ですが、お世話になった方々や母校高知大学に恩返しできるよう目標に向かって果敢に挑戦し、突き進んでまいりたいと思います。

社会人になるまでのあと3ヶ月間、大学生活を楽しみ、4年間をともに過ごしてきた友人たちと笑って卒業できるよう祈ります。少々早いですが、4年間ありがとうございました!!

## 置かれた場所で咲く

食料科学コース3年生 岡本 和華

3年前の私は、現在の自分の姿を想像できたでしょうか。地元から遠く離れた高知の地で自分では何も変わっていないと思っていても、この3年間で確実に変化しているはずです。一般入試で高知大学を受験すると決まった数日後、母と二人で高知大学を訪れたときのことは鮮明に覚えています。ここでの4年間、親元を離れて暮らし、大学で学び、成人し、就職先が決まっていく過程があるのだと考えれば今度の生活が楽しみな気持ちと不安な気持ちが交錯している状態でした。

しかし1回生の頃は、不安を感じるまもなく授業に、部活に、アルバイトに、遊びにとスケジュールは枚挙に暇がなく充実していました。2回生になって物部キャンパスへ移動になると同時に授業の難易度は上がり、専門的で頭が痛くなるよ



うな単語が増え、教科書も格段に分厚くなりました。化学は答えのない世界であり、その答えの探索のために大学生の学びがあるのだと気づかされました。

3回生を目前に控えた春休みの終盤、ふと大学生活において何を得られたか、卒業から逆算して今ここでしかできない学びはあるか考えるようになりました。そこで3回生からは、後免の子ども食堂のボランティアに参加しました。子供たちと遊んだり、勉強を教えたり、地域の農家さんの野菜を頂いてご飯を作ったりと幅広い年齢層の人たちと交流できたと同時に大学の学びだけでは知り得なかった地域の現状をリアルに知ることができました。接客業のアルバイトでは、地元の常連の方や県外から来られるお客さんとお話することで多くの気づきや発見がありました。また、社会人になっても大学時代の多くの経験が思い出せるよう、迅速果断の精神で夏休みには東南アジア3か国を巡る海外旅行、インターシップと積極的に行動しました。

現在は応用微生物学研究室に所属され、得られる知識を必死に吸収しようと努めています。卒論研究や就職活動など何かと忙しくなるこの時期に「今」すべきことをこなし、学業に邁進していきたいです。またここ高知でしかできない体験をして、何十年後も私は高知でこんな経験をした、成果を上げた、と思返し、社会人となった自分の活力になるよう精進したいです。そして大学生活を通じて、無理に上へ上へ伸びようとせず、自分を支える根を下へ下へ伸ばしていけるような人になりたいです。

## 私の大学生活

食料科学コース4年生 福島 寛乃

気づけば大学生活も残り3ヶ月になりました。大学生活はあっという間ではありましたが、この4年間で得た貴重な経験や多くの出会いは、私の人生の大切な第一歩を踏み出させてくれました。

入学当初は、新しい環境に慣れることと日々を充実させることに必死で、これから先のことなんて後回しで、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。その一方、心の片隅に大学生って何だろうという漠然とした不安がありました。そして、3回生の後期からは、生理活性物質化学研究室に所属し、有機化学と向き合う日々が始まりました。実験は良い結果ばかりではなく、失敗の連続でメンタルブレイクすることは多々ありましたが、自分で考え、時には先生や先輩方、同期に頼り助けてもらい、生理活性物質を探求する日々は、1.2回生の頃とは違う充実感がありました。それと同時に、自分で考えることは、高校生とは大きく違う大学生にできることであり、ほんの少しずつでもこの力が身につけることで漠然とした不安は自信に変わっていきました。また、実験する中で新しい自分を見つけることもありました。私の実験はミカドアゲハチョウを扱うに関わらず、虫嫌いでチョウを触るなんて考えられませんでした。今ではアゲハの幼虫を手に乗せ、かわいいと感じるまでになりました。さらに、美意識が高いわけではないのですが、日焼けするのが嫌でよく日傘さしている私が、日中日差しを気にせずサンプリングをすることもありました。このような些細な発見ですが、何かに挑戦することはその選択が正しかったのか間違っていたのかに関わらず、自分が知らなかった自分に会えることを教えてくれました。社会にでてもこの気持ちを忘れず、活かしていきたいと思います。

また、私の大学生活は、個性的で振り切っている素敵な友人ばかりでいつも賑やかでした。大学生活が楽しかったと思えるのは、この友人たちのおかげです。楽しい時だけでなく、つらい時も傍で支えてくれて、様々な壁を乗り越えることができました。そして、このような大学生活を送ることができたのは、両親、兄の支えがあったものです。この感謝の気持ちを忘れず、これから頑張っていきたいと思います。

## 変わる環境、広がる輪

生命化学コース3年生 太田 陵介

高知大学農学部所属し、早3年を経とうとしています。農学部での3年間は、次々に環境が変わっていく、とても濃くて充実したものでした。入学してすぐは大学の雰囲気や寮など、どれも初めてだらけの生活でしたがそれにもすぐに慣れました。気の合う友達や優しい先輩に恵まれて、大学では講義や部活動やサークル活動、寮に帰れば夜遅くまでみんなでおしゃべりするような本当に退屈しない日々でした。2年生になってからは物部キャンパスに移ったため寮を出て初めての一人暮らしが始まりました。家に帰った時の部屋の静かさに寮のにぎやかさを思い出して寂しくなったこともあります。部活動は軟式野球部に所属しました。2年生からは南国から通い、練習場まで片道50分かかりましたが、みんなとする野球がとても楽しくて毎回の練習が楽しみだったので全く苦になりませんでした。2年生の後期から学生実験が始まると練習に行けない日も出てきてしまいましたが、それでも支えてくれたチームメイトと試合で使い続けてくれた監督には感謝しています。今は部活動も最後の大会を終え

て引退しましたが、たまにある飲み会などでみんなに会うのがとても楽しいです。軟式野球部はこの3年間で僕の一番の思い出です。みんなありがとう。

3年生の後期を迎えた今、研究室に所属され、またこれまでと違った新しい環境にいます。頼もしい先輩方に実験のことや有機化学、英語などいろいろなことを教えていただきながら忙しくも充実した日々を送っています。いつも一緒にいた学部の友達とは別々の研究室に所属していることもあり今までよりも会う頻度が減ってしまいましたが、時々一緒に昼食をとったり夜集まったりして近況を報告しあっています。みんながそれぞれ頑張っている話を聞くと、自分も負けていけないという気持ちになります。自分のやる気に火をつけてくれる大切な存在です。

これから先、4年生になると卒論に向けての実験や本格化する就職活動、研究室に新しく入ってくる後輩たちなどまた環境が変わっていくと思います。今までよりずっと忙しくて精神的に追い込まれることもあるでしょう。それでも僕はこれまで広がってきた輪を大事に、これからも輪を広げながら乗り越えられる気がしています。そんな気にさせてくれる3年間でした。最後に、大学に通わせてくれている両親へ。いつもありがとう。



## 高知での4年間

生命化学コース4年生 橋爪 麻緒

あと数カ月で卒業となりますが、振り返ってみると、様々な経験を通して自分自身が成長することができ、実りある大学生活だったと感じています。

私は、高知大学のホームページや高知大学に進学した先輩の話聞いて、私も高知大学で学びたいと考え進学を決めました。入学前は、新しい環境での生活に対して不安でいっぱいでした。しかし、入学してからは、初めての大学の講義やアルバイト、新しい友達や頼りになる先生や先輩ができ、楽しい毎日を送ることが出来ました。

2回生になると、それぞれのコースに分かれ物部での生活が始まりました。1回生よりも専門的な勉強や学生実験も始まり、テスト勉強とレポート提出に追われる日々でしたが、自分が学びたかったことを学べてとても充実していました。また、授業が早く終わった日や休日は友人と出掛けて、自然溢れる高知を満喫することができました。

3回生の後期には、研究室に所属し、さらに専門的な分野の勉強と実験をするようになりました。最初は何も分からずに戸惑うこともありましたが、先輩や先生からのアドバイスを頼りに実験に取り組んでいました。失敗することも多かったですが、自分で考え、試行錯誤することの大切さも学ぶことができました。また、研究室には留学生もいて、英語はあまり得意ではありませんでしたが、外国の文化や生活について教えて貰ったり、日本について教えたりして積極的にコミュニケーションをとるように心掛けていました。

4回生になると、実験と並行して就職活動も始まりました。毎日することが多く、計画をたてても計画通りにいかなくて悩んでいました。そんなとき、周りの人が相談に乗ってくれたり、アドバイ

スをくれたりして、無理せずに自分のペースで頑張ることが出来ました。

初めは不安なことばかりでしたが、今では高知大学で学べて良かったと心の底から思います。このように思えるのも、色々と指導して下さった先生方や先輩、後輩、いつも支えてくれた友人や家族のおかげだと思っています。特に、辛い時には話を聞いて励ましてくれたり、うれしい時や楽しい時には一緒に喜んでくれた友人たち、そして、様々な面から私のことを支えてくれていた家族にはとても感謝しています。大学生活で学んだことや支えてくれている方への感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきたいと思っています。

## たった4年間

海洋生物生産学コース3年生 泉水 彩花

「たった4年間だから」母親にそう言われ、私は高知大学かつら寮に入寮した。学生寮というと漠然と良いイメージがなかったが、「たった4年間」なら、入寮を決断した。もちろん金銭的な理由が主ではあったが、個人的には平日に2食の提供があることが最も魅力的だった。

4月1日、入学式よりも先に入寮。これから始まる新生活に不安がちょっぴり。先輩に先導されて寮に入るなり、寮での生活を甘く見ていたと後悔が過った。案内された部屋はたったの6畳。それを先輩と2人で分けて住むというのだ。また、この寮では様々な当番や行事があり、共用設備には使用時間すら定められている。実家でぬくぬくと自分のペースで生きていた私にとって、寮での共同生活は未知の世界であり、私はなんて恐ろしいところに来てしまったのかと思った。「たった4年間」この母の言葉を初めて重く感じた。

大学は、私が思っていた以上に「集団」という概念が薄いように感じる。特に小中高校のように常に同じ授業を受けるまとまったクラスがあるわけでもなく、各々が好きな授業を選択するため同学部の学生でも関わりが全くない人すらいる。大学では積極的にコミュニケーションを図ろうとしなければ友人はおろか知人すらできないかもしれない。ただでさえ、知らない土地に初めて会う人たち。右も左も分からない状態のまま新たな交友関係を一から作りあげなければいけないのは至難の業だ。一方、大学では今まで以上に交友関係の広さが重要であり、交友関係が広ければそれだけ手に入れられる情報量も学びの幅も広がる。特に学部を超えた交流があれば尚のことである。

寮は部屋が狭い分、同室となる先輩や後輩との距離が精神的にも近くなりやすいと思う。そのため、寮生から学部、学年を超えて交友関係が非常に広がりやすい。同じ釜の飯を食う仲ということわざもあるが、言い得て妙であると思う。寝食を共にするというのは交流を深める手段として適しているし、今しかできない稀有な体験であるとも思う。

私は現在3年生なので、寮にいられるのも残りあと1年と少し。初めはなんて長いのだろうと感じた4年間という時間。だが今は「たった4年間しか」寮にいられないことを寂しいと思う。「たった4年間」この言葉は入寮してから常に頭の片隅にあるが、前と今では全く真逆の意味合いの言葉になっている。

## わたしの研究生活

海洋生物生産学コース4年 山下 はづき

わたしは水族病理学研究室というところで魚の

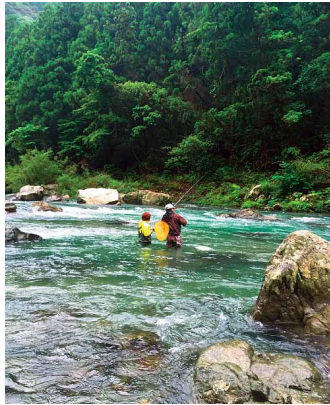
アユにかかる「冷水病」という病気の研究をしています。毎月一人で川に向かい様々な場所で水を採ってみたい、実験室ではひたすらアユを解剖したり鱗を数えてみたいと、この研究室に来なかったら一生経験しなかったであろうということを日々行っています。研究室に所属されたばかりの頃は言われたことを意味も分からずただ作業として行い、こんなこと何の役に立つのだろうとまで思うことがありました。しかし実際に現場に向かい、漁師さんや漁協の方など冷水病の被害に遭って本当に困っている方たちの生の声を聞くことで、徐々に研究の重要性を感じはじめ、謎の使命感のようなものが芽生えました。またわたしは高知県出身なので、今自分がやっていることが地元の水産業に関わる人達の役に少しでも立ったらいいなという想いで研究に取り組むようになりました。

今年の5月にはサンプリングの一環でアユの友釣りも行いました。胴長を着て川の中で腰までつかり、流れに耐えながらなんとか6匹釣り上げることが出来ました。技術はもちろん、体力もなかなか必要な漁法です。高校生の頃はまさか大学生活で、漁協のおじさん達と一緒に山奥の川でアユを釣っているなんて全く想像していませんでした。また学外の方と関わる機会が多いため、いろんな年代の方たちとご飯を一緒に食べたりお酒を飲んだりして交流することも多々あります。研究を通じてこのような貴重な、都会の大学生ならできないような経験がたくさんでき、辛いこともありますが高知の大学生活をしっかりと楽しめています。

わたしは来年高知大の院に進学し研究を続けますが、将来就きたい職種など未だにはっきりと決められていません。やりたいことが明確であったり、就職が決まっている周りの友達を見ると羨ましさと焦りから不安でいっぱいになります。しかし大学院での2年間は、学部での4年間と同



じかそれ以上に一瞬で過ぎてしまうと思います。不安になっている場合ではありません。大学院では時間を無駄にすることなく、今まで積んできた経験を活かしつつ自分の将来にしっかり向き合おうと思います。しかしまずは目の前の卒論に向き合わなければならないので、明日も実験頑張ります。



## 大学生活において「学ぶ」ということ

国際支援学コース3年生 朽尾 妃奈

高知大学に入学し早、約3年という月日が流れました。本格的な就職活動に突入した今私の大学生活を改めて振り返るようになり気付いたことがあります。それは大学生活において学びの場が増えたこと、もう一つは少なくとも私の中で学ぶという行為が今までの高校までの学習とは本質的に違うということです。

大学では学ぶ場所が多く存在します。学ぶとは授業や自宅学習で知識を得るというだけのものではありません。2017年の12月5日から14日まで海外フィールドサイエンス実習として、マレーシア・タイ・ベトナムからの実習生を迎え彼らの実習の補助から日常生活の世話までを国際支援学コースの3回生とこの夏マレーシアで実習を受けた2回生で行いました。そこで拙いながらも

英語のみで会話をする中で、これまでの読む・書くといった英語の学習とは違った学びを得ました。それは英語を言葉として使うということです。彼らの要望を正確に理解したり、また彼らが帰ってから連絡を取り合ったり、日常生活に学びが組み込まれることで会話の中で発見や気づきを得ることが出来るようになりました。

また私は1年のころから学生運営のよさこいチームにも所属しており、特に3年の夏は中心メンバーとして運営を行いました。特に地方車という音響を積むトラックの制作をしているときに、状況に応じ指示を出し、去年と今年の事を踏まえ来年に生かせるように後輩指導とデータを残す作業をしていました。こうして周りを見ながら考え行動することをチーム運営から学びました。

このような経験を通し大学生活では自分が手を伸ばせばその分の学びがあることを知りました。そして冒頭にも書いた通り高校までの学びと大学での学びは異なると考えています。前者が知識を得る受け身だけの学習だとすると、後者は自ら学習の場を探し学問としての学びだけでなく、これから社会に出るにあたって必要な考える力を得る学習なのだと思います。専門的な知識を得ることに加え、それはなぜなのか、どうすればよいのか、メリットやデメリットは何なのか、それをその都度考え、伝え、さらに意欲的に多角的に学ぶことで、自分で生きるための力を蓄える場所が私にとっての大学という場所です。あと残された1年、悔いの残らないよう精一杯「学ぶ」ということをしていきたいです。

## 大学生活を振り返って

国際支援学コース4年生 矢島 由寛

私が高知大学に入学してから、早くも3年7ヶ月

月が経ちました。私にとって大学生活は自らのキャリア形成において非常に大きな影響を及ぼすことの連続でした。

大学1年生の時、私は「大学で何を学ぶのか」「大学の役割とは何か」という大学生活を送る上で基礎となる価値観を学びました。この時私が考え、感得した価値観は現在まで根付き、生きています。実際に私は大学1年～3年の間、その価値観に基づいて産学官が協働しながら地域活性化を目指すプロジェクトに学生委員として参画し、自らの知識や前述の価値観を基に意見発信を行いました。この時得られた経験は、今でも大きな価値を持つものとなっています。

大学2年生になり、学び舎は朝倉から物部へと移行し、より専門的な学問を学ぶこととなりました。これに際し、私はコース選択において、農学における様々な分野よりアプローチが可能な国際支援学コースを選択しました。コース名の通り、主には農学における国際的な動態に関する授業が多く、実際に外国へ赴いて現地で10日程実習をすることもありました。一方で多くの受講科目が自由に選択可能でしたので、私はここで林学を中心に幅広い分野に対しても知識を深めました。

大学3年生では、研究室への分属が行われました。私は分属については以前より希望する研究室を決めていた一方、同時に自らが進んで学んだ林学の最前線、特に行政ではどのような取り組みがなされているのかを知りたいと考えていました。そこで、私は挑戦するという目的も兼ねて農林水産省が行っているインターンシップに応募し、夏休み期間中に東京にある林野庁本庁で業務体験をしました。ここでの経験は大学生活最大の糧となるとともに自身のキャリア形成に大いに役立つものとなりました。

大学4年生になってから現在、私は林学を活

かしたりリモートセンシングについての研究を行うこととしています。以前より進んで学んだ学問の発展分野であることに加えて大学生活の集大成となるものなので、今まで学んだ知識を総動員して研究を進めていきたいと考えています。

このように、私の大学生活は大学の講義のみならず、学校という枠組みを超えた様々な活動によるキャリア形成に重きを置いており、非常に充実していました。とはいえ、私の大学生活は私1人の力だけではなく、私に関わる全ての方々が力を貸して下さったからこそ充実化が可能であったと考えています。今後も様々な方々に感謝しつつ、残りの大学生活も引き続き有意義となるように過ごしていけたらと考えています。

## 高知大への賛美(外間的観点から)

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生  
上向井 美佐

高知大へ入学してから、早6年が経過しました。走馬燈のように駆け巡る、思い出したくても思い出せない数々の記憶が蘇ってきます。入学当時は、向学心と学業意欲に燃え、周囲からは「もっと頑張れ」、「真面目にやれ」、「いい加減な態度を改めろ」など注意と叱責を受けて入学しました。卒業を数ヵ月後に控えた現在でも、その状況はあまり変わっていないことが残念です。

長いようで短い、ようで長い大学生活も終盤に近付いてきました。この作文の主題との関係もあり、とにかく高知大について褒めちぎろうと思います。さて、高知大学の特筆すべき美点として「寛大さ・鷹揚さ」が挙げられます。どのような点かと言いますと、皆さん一様に大樂かです(若干の個人差はあります)。

少々のことには動じず「～であるべきだ」、「～以外の事象は許さない」等の固定観念を有する人が少なく(これも個人差があります)、どちらかと言えば子供の様な素直な性質を持つ方が多かったように記憶します(少なくとも私の周囲では)。中には、経済的にも鷹揚と言いますか、怠惰に近いのではと疑う方も居て「将来、詐欺に遭うのではないか」と本気で心配になった友人も居たほどです。

各々の生育環境或いは、生来の気質により形成された人柄を矯正することは困難です(夫婦喧嘩や兄弟喧嘩、親子喧嘩などの実例がそれを証明しています)。自身とは違う価値観を持った他者を相手に上手な説明や釈明が求められる時、高知大学の皆さんはこの寛大な精神を発揮され、相手の妥協点まで自身の考えを添わせて双方納得するまで適度に討議されていました。

ここで苦手な人が討議相手だとした場合どうするのか?という疑問が出できますが、私の推測からすると、「こいつはトゲグサリヘビでは無い」、「体内でテトロドトキシンを合成しない」など無理にでも相手の利点を探し出し相手に対する嫌悪感を緩和させているのではないかと思われま

す。多分。  
未だ賛美し足りないのですが字数制限の関係上、纏めに入ろうと思います。

博学埼栄、人格高潔、完全防水機能を併せ持つ、尊敬し愛すべき研究室の皆さん。厳しくも何処か暖かく、指導し、世話を焼き、怪我をすると手当をしてくれ、度量の広さに感服した指導教官の先生。TAの業務等々でお世話になりました先生方。学務・庶務・会計等全般に懇切丁寧

## 大学院生活を振り返って

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生  
平松 剛

私の大学院生活は、のっけから波乱の幕開けでした。多くの人は卒業論文で用いたテーマもしくはこれに類似するものを修士での研究テーマとするでしょうし私もその予定でした。ですが院に入って教わるはずであった助教授の方が転勤となり、結果として研究室も修論のテーマも変更することと相成ったのです。そこからは新しく分属することとなった主に昆虫を扱う研究室で、自分の事にすらてんやわんやする日々が始まりました。

まず院に入って初めに取り掛かったこと、それは自身の研究テーマに関わりそうな過去の論文を読み漁ることからでした。何せ予備知識など殆どゼロからのため、それこそ3年生の研究室に

分属したてと同じ様なスタートだったのです。加えて実験に用いるハウスの運用や使用する害虫・益虫の飼育方法及び管理・繁殖等、とにかく新しく覚えることだらけでした。私はそこまで要領よく出来る人間ではないため、もうこの時点で自分の事で手一杯でした。その後も実験用に育てていた作物に害虫が繁殖してくれなかったり、そのため丸々1回分実験が没になって追加で新しい実験を始めることになったり、新しく始めた実験は使用している昆虫が実験中に不慮の事故で死んで試行回数がなかなか増やせなかったりとハプニング続きでした。ですがこれらの問題1つ1つに着手し、解決していくことは大変でもあり楽しくもありました。先の昆虫の事故死を例に挙げてみますと、過去の研究では寒天を冷やし固めたものを土台としていたのを使用していたのですが水に浸した脱脂綿を用いても同様に実験が行え、かつ死亡率を格段に下げることが出来たのです。ですがこれは他の研究室が行っているハダニ飼育からヒントを得たものであり、独力では恐らく解決できませんでした。

さて長々と語りましたが、結局私の学んだ事は未知に臆することはない、という事です。自身を取り巻く環境が大きく様変わりしたとしても、やってこなかった事・知らなかった事・不慣れな事は努力次第で出来る事に変えていけるものでありと改めて認識しました。また、研究において他者から受けるインスピレーションの重要さも感じており、研究は一人でするものではないという言葉の意味を痛感しました。大学院生活ももうすぐ折り返し地点、修士の研究として恥ずかしくないものにする為にも今以上に励みたいと思います。

## 日々是好日

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生

山口 由葵

高知大学にきてよかったです。こういうと大学から圧力かけられているのかなと思われたでしょうが、これは本当に思っていることです。

およそ6年前、農学部があるからという理由からオープンキャンパスも行かずここでいいかとなんの思いもなく入学しました。学部生のころは部活の弓道ばかりをしていたため、授業はサボり、出席しても遊び疲れ寝てばかりいました。そんな私でもちゃんと4年間で卒業できました。高知大学すばらしい。

その後、私は大学院に進学し林業を専攻しています。学部3年生までは農業分野を学んでいましたが、4年生になったころに私は高知の森林に魅了されてしまい研究室分属を機に森林・林業分野へ転向しました。高知県は森林面積8割と全国屈指の森林県です。そんな場所にいればちょっと行けば嫌でも森林に行き着きます。広大なフィールドから野生動物の痕跡を探したり、植生から環境の成り立ちを考えたり、実習を通して森林が大好きになってしまったのです。味をしめた私は大学が所有する演習林を歩き回り、キノコを採ってきては試しに食べて舌がしびれたり、友人とあの植物はなんだと言い合ったり、薪ストーブで実験と称してピザを焼いたり、あとちょっと勉強したりしてきました。アホみたいなことですがそんな日々が私にとっては楽しく、学びもありました。分属後は林業を勉強し始めたばかりで知らないことばかりでしたが、今ではすっかりレベル、コンパス、測量、植生調査になんでもござれです。

高知大学に来ていなければきっとこんな体験や経験をできなかったと思います。でも、高知



大学にきたからといってできたものでもなかったと思います。私はとても周りの方たちに恵まれていました。なんでも相談できる友人や先輩もいれば、価値観の違いから喧嘩したりする子もいたり、理解が遅い私を見捨てず対応してくださった先生に、私をそっと見守ってくれた両親、感謝もしきれません。文章書きながら泣きそうになってしまいます。

私は大学から大学院まで6年間高知大学にいたこととなります。後悔や失敗をめちゃくちゃしました。でもそんなものしたっていいのです。むしろしてよかったと思います。この大学での6年間はとても濃いもので大きく自分自身に影響を与えたと思います。

院を修了し高知を離れますが、また友人たちと演習林の宿舎に泊まりにくることでしょう。



## 院生として過ごした2年

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生  
依光 かほる

私が現在所属している水環境工学研究室に所属したいと思ったのは、物部キャンパスに移って専門科目を受講してすぐでした。先生の授業が面白く、勉強が楽しかったのはもちろんのこと、

授業補助を行うティーチングアシスタント (TA) をしてくれていた大学院生の先輩方がとても素敵だったというのも大きな理由の一つでした。授業中だけでなく、授業の質問やレポート作成の相談をしに研究室を訪問したときに、いつも丁寧に対応くださったのを覚えています。大学院に進学して、私にも TA をする機会がめぐってきました。自分が学部生のころ理解し切れていなかった部分もありましたが、後輩に恥ずかしくないように授業内容を勉強しなおして授業に臨みました。

そのときの後輩達が今年度の10月から、研究室に所属してきました。所属した後輩の一人が依光さんの説明がピンと来たんです。」と言ってくれたのを嬉しく思うのと同時に、私も「研究室所属の理由の一つ」になれたのかもしれないと安堵したのを覚えています。

研究に関しては、続けていたらいつの間にか成長していた、という印象です。一緒に研究している後輩にたまに叱られ、研究室の先輩に分からないことを相談し、先生と打ち合わせを重ねる中で、少しずつ考えられる領域が広がったように思います。さらに、1年間以上、週1、2回の頻度で通った下水処理場の皆様には時に優しく、時に厳しくご指導いただき、非常にお世話になりました。学部生では、これだけ社会の皆様と関わるチャンスはあまりないと思います。現場の皆様は何事にも興味を持って取り組み高め合いながら働く姿、他分野であっても互いに気兼ねなく意見を交わすことができる人間関係を見て、私もこんな皆様と働きたいと思うようになり、4月からはその会社に就職できることになりました。

研究室所属、進学、就職など、私たちは選択しなければいけないことがたくさんあります。そんな選択をする際、最も影響を与えるのは人ではないかと私は思います。将来の仕事という大きな選択を、納得のいく選択にしてくれたのも大

学院でお世話になった先生方や現場の皆様でした。社会に出るのは、学部で卒業していった同期のみんなより2年遅くなりましたが、意味のある2年を過ごせて嬉しく思います。これまでお世話になった皆様に感謝しながら、残りの学生生活がさらに充実したものになるよう、努力して参ります。

## ALL BY MYSELF

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生  
常光 優太

高知大学に入学してから数えると早6年という月日が経ちました。高知大学の学び舎で過ごす期間もあと3か月を切ったところです。小生が大学院に進学した理由は、まだ社会人になるには早いと考えたからです。ニートになりたいというわけではなく、研究のスキルを上げて、社会人になってからもその道で食べていきたいという思いが頭の片隅にありました(ということにしておきます)。小生は学部生の頃から、多くの日本人の主食である米を生み出すイネについて、とある遺伝子の機能を調べています。植物というのは、複雑な消化器官をもつ動物と比べると、いかにも単純な生物に思えるかもしれませんが、しかしながら、植物は置かれた環境で上手く生きていかななくてはならず、植物を支えている多くの生理的なメカニズムは非常に複雑です。幼い時から植物が好きだった小生は、その魅力に取りつかれ、日々やりがいをもって研究しています。

99%の失敗に1%の成功と言います。もし、そうであれば小生は大学院を修了できません。でも、失敗ばかりの日々の多いことも事実です。ポジティブな結果が出たと思ったら、ネガティブな結果が立て続けに出ることが多く、一連の実験

期間が1か月以上に及ぶ実験でもそのようなことがざらにあります。研究室で深夜0時を過ぎて、何度発狂してきたことでしょう。今、思い出すだけでも鳥肌が立ちます。効率を上げるため複数の実験系を日々同時に行っていますが、小生の研究室は人員が皆無に等しく、All by myselfで朝から夜まで実験室にこもりっきりのこともありました。発狂はしますが、学部4年間所属したヨット部での活動やバイト先でパートのおばちゃんから受けた理不尽な扱いなどから得られた忍耐力のおかげで自我は保つことができています。

このような甲斐もあって、何とかポジティブな結果を学会で発表することができました。また自分で導き出した結論を大勢の前で発表でき、とても感慨深いものがありました。さらに、今年度は小生の就職活動の年でしたが、無事研究職として内定を頂くこともでき、小学校の卒業文集に書いた「研究者になる」という夢に一步前進することができました。若者の多くが、あまり目的を持たずただただ大学院に進学している昨今ではありますが、そのような中でも世俗を捨て努力を貫き通せたことは小生にとり最高のリア充だと感じています。

## 大学院生活を通して

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生  
森澤 高至

『自由には大きな責任が伴う』。私の大学・大学院生活を一言で表わした言葉です。

現在私は、修士課程1年で深海底下微生物の遺伝子研究を行っています。

大学院は授業がほとんど無いので、大半の時間を実験に注ぐことができます。余った時間は、自身のスキルアップの為の勉強や、息抜きの娯

業、企業研究といった就活の準備、バイト等、学部生の時と比較して行動の幅が大きく広がったように感じます。つまり大学院生活はとても自由度の高いものだと言えます。

しかし、当然ですが、だらしのないと自由は違います。

大学院生活は様々な選択肢があるので、自己管理がとても重要です。

私は昔から朝起きるのがとても苦手で、遅刻した分を取り戻そうとした結果、遅くまで学校に残って実験をする夜型人間になってしまっていた時期がありました。また、その考え方を良しとしていました。しかし、これはとてもだらしのない事なのだとして修士に入って漸く気付きました。生活習慣が乱れることで、身体的にも精神的にも支障をきたすことが多くなることが分かったからです。一度身についた生活習慣を矯正するのはとても時間がかかりますが、そういった自分の課題も院生活を通してより明確化することが出来ました。

また、私は大学院生になって、失敗を恐れず積極的に色々な事柄にチャレンジすることができるようになりました。研究内容を国際学会にて発表する機会もあり、様々な研究者との交流から、大きなインスピレーションを受けました。

他にも、留学生と交流することでいろいろな国籍の友人も増えました。こういった機会は、自分自身の英語学的スキルやコミュニケーション力だけでなく、自分自身を成長させてくれるものであったと感じています。多くの人と交流し、多くのことを学べる大学院生活は私にとって、とても大切な時間です。

私はこの多くの自由な時間を、いかに自分の成長の為に活用するかが大学院生活において非常に重要であると考えています。あらゆる選択肢からどう考え、どう行動するかによって、様々な結果が生じます。失敗も成功も全てが責任として降

りかかってきます。

大学院を通してでしか得られない、学びの時間と自由な時間のバランスを大切に、今後も精進して参ります。

## 進学による新たな経験と発見

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生  
大引 浩平

私は高知大学水産利用学研究室でプリのカラーゲンについて研究を行っています。大学院への進学は今ではそんなに珍しいものではないというイメージを持っていましたが、周囲からは少し驚かれました。実験自体は卒業論文で一区切りつけられたのですが、私はこの分野でどこまでできるのか試してみたいと思い、進学を決めました。

現在私は先輩や先生方のご指導の下研究に励み、共に進学をした友人たちと学生生活を楽しんでいます。進学したことで研究室において立場が上となり、後輩の実験や学生生活をサポートすることになりました。逆に私が解らないことを後輩が理解している時もあるので、その時は後輩に教えてもらうというように友好的関係を築いています。そして私たちの研究室は水産物を扱っているので、サンプリングに用いた魚を研究室の皆で食べたりもしています。

大学院に進学したことで得ることができた経験が主に2つあります。1つ目はティーチングアシスタント(TA)です。1年生を対象としたパソコンの講義だったのですが、「教える」ことの難しさを知りました。私は何度か学生の質問に受け答えしたのですが、私の意図が伝わっていないことが時折ありました。そこで自分が理解するよりも相手が理解できるように伝えることの方が難しい



ことに気が付きました。これは教育側の立場になったことで改めて分かったことです。

2つ目はある調査船のサンプリングに同行することになったことです。サンプリングに同行しただけで実験を行ったわけではありませんが、そこで現役の研究者とお話する機会がありました。研究のことについてお話していただいたうえ、私の進路のことについても聞いていただきました。他にも釣りといった研究とは別のことも色々教えていただきました。この経験は大学院に進学したからこそ得られたものであり、私にとって忘れられないものとなりました。

実を言うと私は大学院進学に対し不安を抱えていました。しかし研究を続けることに興味を持っていたという理由から進学したことで、私は難しくとも楽しく研究を行うことができます。進学に対し後悔はなく、寧ろ進学しなければ得ることのできなかった経験がいくつもあります。修士2年生から修士論文と就職活動が本格的に始まるので、私の活動にも制限が掛かります。それでも私は興味を持ったことを諦めないようにして行くつもりでいます。



サンプルに用いたスルメイカを「食べるために干している様子

## 「動く」という力

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生  
久保 穂波

大学生、1人暮らし、初めての高知、目に入る全てに心踊ったあの日から、早5年が経とうとしています。

入学当初から私は「毎年外国に行くこと」「新しいことをする」この2つを自分の軸とすることを決めていました。それをふまえてこの5年間を振り返ってみると、様々な事に対して「攻め」の姿勢を貫いた、能動的な学生生活を送れたのではないかと感じています。

農学部国際支援学コースでの毎日は森から海まで、高知からアジアまで学びたい事をひたすら吸収できる環境でした。勉強以外でも部活動、学生団体立ち上げ、アルバイト、旅行、インターンシップ、留学と大学生でしか出来ない様な事を一通り経験することができました。

中でも留学は、人生において大きな意味のある時間であったと思います。私はトビタテ留学 JAPAN という官民協働留学促進プロジェクトから支援を頂き、学部4年次にタイとパラオ共和国で海洋ゴミに関する研究留学をしました。タイでは英語で実習や授業を受けながら、調査技術や海洋に関する知識を学び、研究をする上での基盤を作ることが出来ました。休日はタイの友人と共に念願のワットプラケオというお寺に行く事が出来たり、日本とは違う様々な文化に触れ充実した生活でした。今でもタイで出会った友人とは頻繁に連絡を取り合い、お互いの国を訪問する仲です。

パラオでは実際に海岸で漂着ゴミの調査を行いました。私にとっても、研究室にとっても新しい調査研究である為、最初は何をするにも手探りで目当てのサンプルが取れず悶々とする日々も



ありました。しかし、先生と共に文献を読んで手法を考え、パラオの人々から多くの協力を受ける事で、漂着ごみ及びマイクロプラスチックのサンプリングを行い、研究データを日本に持ち帰ることが出来ました。帰国後、結果を論文にまとめ、大学院1年の秋には初めて国際学会に出場し Best student presentation awards を頂くことができました。パラオでの生活は研究がメインの為辛い事も多かったですが、私の夢である「研究」という仕事の厳しさも、結果が出た時の嬉しさも味わう事の出来た貴重な経験でした。

大学院2年生となる2018年は、就職活動と修士論文の2つが占める年になると思います。学生生活残り1年、悔いのない研究を行い、社会人として最高のスタートを切れるように過ごしてゆこうと思います。



# 就職等進路状況資料

## 学部

### 平成24年度～平成28年度農学部卒業生進路状況(各年5月1日現在)

学部	卒業年度		2012(平成24)年度卒業 2013年3月卒業		2013(平成25)年度卒業 2014年3月卒業		2014(平成26)年度卒業 2015年3月卒業		2015(平成27)年度卒業 2016年3月卒業		2016(平成28)年度卒業 2017年3月卒業			
	区	分	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
農	卒業生数		173	90	83	174	89	85	173	89	84	169	84	85
	就職希望者		103	51	52	119	55	64	113	52	61	121	59	62
学	企業等		78	37	41	92	43	49	95	39	56	95	44	51
	公務員		15	8	7	17	10	7	7	4	3	18	9	9
部	教員		2	1	1	3	0	3	2	0	0	1	0	1
	計		95	46	49	112	53	59	104	45	59	114	53	61
	就職率		92.2%	90.2%	94.2%	94.12%	96.36%	92.19%	92.04%	86.54%	96.72%	94.21%	89.83%	98.39%
	進学者		60	34	26	43	28	15	50	30	20	44	23	21
	その他		18	10	8	19	8	11	10	7	3	4	2	2
	計		92.97%	91.18%	91.18%	92.97%	91.18%	91.18%	92.97%	91.18%	92.97%	91.18%	92.97%	91.18%

(注)①就職率は、就職希望者と就職者の比率を示す。②秋季卒業生・早期卒業生を含む。③教員には臨時教員も含む。

### 高知大学 平成24年度～平成28年度 農学部卒業生主な進路先一覧

業種	平成24年度(平成25年3月)卒業		平成25年度(平成26年3月)卒業		平成26年度(平成27年3月)卒業		平成27年度(平成28年3月)卒業		平成28年度(平成29年3月)卒業	
	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	
公務員	県庁(高知・兵庫・和歌山)	公務員	県庁(高知・愛媛・熊本・京都)	公務員	高知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、徳島県庁	公務員	県庁(高知、鳥取、愛知)	
公務員	市町村役場(大浜市・高砂市・坂出市)	公務員	市町村役場(香南市・香美市)	公務員	高知市役所、南国市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、松山市役所	公務員	岡山県警察	
公務員	警察(広島・岡山)	公務員	警察(大阪・広島・鳥根)	公務員	大阪府和泉市教員	公務員	愛知県立教員	公務員	高松高等裁判所	
教員	公立高等学校	公務員	農林水産省中四国農政局	公務員	株式会社太田花き	公務員	丸和有限会社川淵牧場	公務員	公立中学校	
教員	財団法人中国四国酪農大学院	公務員	海上保安庁、陸上自衛隊	公務員	株式会社ジジージャパン	公務員	丸和有限会社川淵牧場	公務員	株式会社東八ト	
製造業	山崎製パン株式会社	教員	公立中学校	製造業	株式会社えがお	製造業	株式会社サック	製造業	株式会社大塚製薬工場	
製造業	株式会社チュウアンナ	教員	公立高等学校	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社サタケ	製造業	株式会社大塚製薬工場	
製造業	アヲハタ株式会社	卸売・小売業	大信産業株式会社	製造業	ひまわり乳業株式会社	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
製造業	富田薬品株式会社	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
製造業	明星産商株式会社	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
製造業	兵庫県農業共済組合連合会	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
複合サービス事業	JA(西条・三原・福山・京都)のく(に)	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
複合サービス事業	大分朝日放送株式会社	運輸業・郵便業	四国旅客鉄道株式会社	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
通信産産業	NTTマーケティングアクト	情報通信業	NTTマーケティングアクト	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
建設業	株式会社建設技術研究所	情報通信業	(株)高知通信機	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	株式会社大塚製薬工場	
教育・学習支援業	株式会社日能研関西	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	

学部 平成28年度 農学部卒業生就職等進路状況(平成29年5月1日現在)

学 科 コ ー ス 名	卒業生		就職希望者		就職者内訳				☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院 専攻科 専攻科 専攻科 留学等	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)					
	県内		県外		県内		県外			企業等	公務員		教員	教員 再受検		公務員 再受検	不明			
	計	男	計	女	企業等	公務員	教員	企業等										公務員	教員	
暖地農学 コース	34	7	27	29	8	21	28	8	4	4	0	20	20	0	0	96.55	1	0	0	100.00
男	20	4	16	15	3	12	15	3	3	3	0	12	12	0	0	100.00	0	0	0	100.00
女	14	3	11	14	5	9	13	5	1	4	0	8	8	0	0	92.86	1	0	0	100.00
海洋生物 生産学 コース	25	3	22	15	1	14	15	1	1	0	0	14	9	4	1	100.00	0	0	0	85.00
男	18	2	16	9	1	8	9	1	1	0	0	8	6	2	1	100.00	0	0	0	77.78
女	7	1	6	6	0	6	6	0	0	0	0	6	3	2	1	100.00	0	0	0	90.91
食料科学 コース	25	3	22	22	1	21	20	1	1	0	0	19	18	1	0	90.91	2	0	0	94.44
男	12	1	11	9	0	9	8	0	0	0	0	8	7	1	0	88.89	1	0	0	85.71
女	13	2	11	13	1	12	12	1	1	0	0	11	11	0	0	92.31	1	0	0	100.00
生命化学 コース	25	4	21	17	4	13	16	4	4	0	0	12	12	0	0	94.12	1	0	0	90.00
男	12	3	9	10	4	6	9	4	4	0	0	5	5	0	0	90.00	1	0	0	87.50
女	13	1	12	7	0	7	7	0	0	0	0	7	7	0	0	100.00	0	0	0	100.00
自然環境学 コース	13	2	11	9	2	7	8	2	2	0	0	6	6	0	0	88.89	1	0	0	92.86
男	9	0	9	6	0	6	5	0	0	0	0	5	5	0	0	83.33	1	0	0	83.33
女	4	2	2	3	2	1	3	2	2	0	0	1	1	0	0	100.00	0	0	0	100.00
環境工学 コース	12	3	9	7	1	6	7	1	0	1	0	6	5	1	0	100.00	0	0	0	100.00
男	9	3	6	7	1	6	7	1	1	0	0	6	5	1	0	100.00	0	0	0	100.00
女	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	---	0	0	0	100.00
森林科学 コース	23	6	17	22	5	17	18	4	3	1	0	14	13	1	0	81.82	0	0	0	100.00
男	10	3	7	9	3	6	2	2	2	0	0	4	3	1	0	66.67	3	0	0	100.00
女	13	3	10	13	2	11	12	2	1	1	0	10	10	0	0	92.31	1	0	0	100.00
国際支度学 コース	11	1	10	7	1	6	7	1	1	0	0	6	5	1	0	100.00	0	0	0	93.75
男	6	1	5	3	1	2	3	1	1	0	0	2	2	0	0	100.00	0	0	0	85.71
女	5	0	5	4	0	4	4	0	0	0	0	4	3	1	0	100.00	0	0	0	100.00
合計	168	29	139	128	23	105	119	22	16	6	0	97	88	8	1	92.97	9	0	0	94.21
男	96	17	79	68	13	55	62	11	1	0	50	45	5	0	0	91.18	6	0	0	89.83
女	72	12	60	60	10	50	57	10	5	5	0	47	43	3	1	95.00	3	0	0	96.39

※ 本表は平成29年3月の学部卒業生の就職状況である。  
 (秋季卒業生・早期卒業生を含む)(就職者に期限付き採用者を含む)(教員には、専門学校教員・大学教員を含む)(国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)  
 ☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

大学院 平成28年度 総合人間自然科学研究科農学専攻(修士課程)修了者就職等進路状況(平成29年5月1日現在)

専 攻	修了者		就職希望者		就職者内訳				☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院 専攻科 専攻科 留学等	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)					
	県内		県外		県内		県外			企業等	公務員		教員	企業等		公務員	教員	公務員 再受検	不明	
	計	男	計	女	企業等	公務員	教員	企業等												公務員
計	48	41	7	41	12	29	34	11	6	4	1	23	17	5	1	82.93	7	0	0	89.19
農学専攻	32	27	5	26	7	19	22	6	2	3	1	16	11	4	1	84.62	4	0	0	90.00
男	16	14	2	15	5	10	12	5	4	1	0	7	6	1	0	80.00	3	0	0	86.24

※ 本表は平成29年3月の大学院修了者の就職状況表である。  
 (秋季卒業生・早期卒業生を含む)(就職者に期限付き採用者を含む)(教員には、専門学校教員・大学教員を含む)(国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)  
 ☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

## 平成29年度後援会総会について

後援会総会は、平成29年4月3日（月）入学式に出席された保護者の皆様の出席を得て、高知県民文化ホールグリーンホールで開催しました。

本総会では、平成29年度事業計画・予算案、平成28年度事業報告・決算報告が承認され、次のとおり平成29年度役員が選出されました。

### 平成29年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿

	役職名	氏名	学生の学科・コース等	学年
①	会長	佐野 健一	海洋生物生産学コース	3
②	副会長	横山 志保	生命化学コース	4
③	副会長	秋澤 成高	海洋生物生産学コース	3
④	会計	小島 一郎	森林科学コース	3
⑤	監事	片岡 和教	農学専攻	2
⑥	監事	中山 泰志	流域環境工学コース	3
⑦	理事	依光 俊明	農学専攻	2
⑧	理事	谷井 道生	農学専攻	1
⑨	理事	志磨村美智恵	流域環境工学コース	4
⑩	理事	村田リエ子	自然環境学コース	4
⑪	理事	山本 美保	森林科学コース	4
⑫	理事	福永小百合	暖地農学コース	3
⑬	理事	濱田 和彦	農林資源環境科学科	2
⑭	理事	澤田 伸夫	農芸化学科	2
⑮	理事	池田 ユカ	海洋資源科学科海洋生物生産学コース	2
⑯	理事	濱田 典明	農林資源環境科学科	2
⑰	理事	森田 研一	農林資源環境科学科	1
⑱	理事	武政 久志	農林資源環境科学科	1
⑲	理事	吉田 君	農芸化学科	1
⑳	理事	土橋 鏡郎	農林資源環境科学科	1



## 平成29年度 予算書

## 1. 収入の部

科 目	金 額	内 容
繰越金	1,475,339	前年度からの繰越
会費	4,356,000	前年度実績3,960千円の10%増を計上
雑収入	70	預金利息(H28年度実績)
計	5,831,409	

## 2. 支出の部

科 目	金 額	内 容
就職斡旋旅費等 助成金	1,185,000	新入生の物部開講授業への補助、学生の就職活動に関するガイダンス・講演会の開催、就職関係図書(会社四季報、週刊東洋経済等)購入、大学行事(オープンキャンパス、大学祭、物部キャンパス1日公開、物部フォーラム等)への援助、総会・役員会等会議費、学部の管理運営への補助、学生表彰、その他
卒業生送別費	1,100,000	卒業・修了歓迎祝賀会
課外活動助成費	500,000	課外活動用品購入・修理、よさこい踊り参加補助、学生と学部長等との意見交換
卒業記念品費	400,000	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋等
後援会だより	600,000	印刷費等
事務経費	300,000	用紙類、文具類、通信費、印刷費等
予備費	1,746,409	その他学生支援経費等
計	5,831,409	

## 平成28年度 決算書

## 1. 収入の部

平成29年3月30日現在

科 目	当初予算額	決算額	差 額	備 考
繰越金	965,749	965,749	0	
会 費	4,380,000	3,960,000	-420,000	学部125名 大学院15名
雑収入	693	70	-623	
計	5,346,442	4,925,819	-420,623	

## 2. 支出の部

科 目	当初予算額	決算額	差 額	備 考 (主な支出・補助の項目等)
就職斡旋旅費等助成金	1,500,000	875,159	624,841	就職ガイダンス・就職セミナー 就職関係雑誌 新入生の物部開講授業支援 学生学部長表彰 大学祭(黒潮祭)活動資金支援 学部行事関係(オープンキャンパス、物部 キャンパス一日公開、ホームカミングデー) 後援会総会・役員会
卒業生送別費	1,100,000	1,001,561	98,439	卒業生・修了生祝賀会
課外活動助成費	400,000	398,932	1,068	よさこい参加学生補助、学生との懇談、 課外活動用品(運動用具)
卒業記念品費	500,000	325,519	174,481	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋
後援会だより	600,000	562,480	37,520	後援会だより印刷費等
事務経費	300,000	286,829	13,171	通信費(後援会だより・入会の案内発送、 役員会等案内)、印刷費(封筒他)
予備費	946,442	0	946,442	
計	5,346,442	3,450,480	1,895,962	

## 3. 繰越の部

(収入の部決算額合計)

(支出の部決算額合計)

(繰越金)

4,925,819円 - 3,450,480円 = 1,475,339円

## 平成28年度 後援会の活動状況

### ○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 ..... 平成28年 4月 3日(日)
- 役員会(3回) ..... 平成28年 6月22日(水)
- ..... 平成28年12月 8日(木)
- ..... 平成29年 3月13日(月)

### ○卒業生・修了生への支援

- 卒業生・修了生の歓送会
- 卒業記念写真、卒業証書ファイル他
- 秋季卒業生祝賀会

### ○新入生への支援

「大学基礎論」「学問基礎論」等物部開講時の支援

### ○第38号(平成28年度)後援会だよりの発行

学生寄稿原稿を中心に作成し、全保護者への送付(年1回)

### ○就職活動への支援

- 就職ガイダンス・就職セミナー補助
- 就職用図書購入(会社四季報、週刊東洋経済等)
- その他就職活動のための経費

### ○学生活動への支援

- 日章寮よさこい踊り子隊支援
- 大学祭(黒潮祭)実行委員会への支援
- 学生と学部長等との懇談会
- 課外活動用品

### ○学部関係行事への支援

物部キャンパス一日公開、オープンキャンパス、ホームカミングデー  
学生学部長表彰懇談会

## 平成29年度 後援会の活動状況(平成29年12月迄)

### ○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 ..... 平成29年 4月 3日(月)
- 役員会 ..... 平成29年 6月27日(火)
- ..... 平成29年12月19日(火)
- ..... 平成30年 3月予定
- 保護者会 保護者を対象に就職説明会、親睦会を開催  
..... 平成29年11月 3日(金・祝日)

高知大学農林海洋学部の公式ホームページをぜひご覧ください。 <http://www.kochi-u.ac.jp/agrimar/>

平成29年度 保護者会の報告



# 保護者会 初開催!!



11/3(金・祝)に後援会主催で初の保護者会を開催しました。当日は約80名の保護者の方々にご参加いただき、就職説明会では、高知大学就職担当事務職員が現在の就職活動状況を説明し、3名の卒業生に体験談を語っていただきました。その後、親睦会では、おにぎり、サンドウィッチ、オードブルなど軽食をとりながら、普段なかなかお会いする機会のない保護者間で気軽に話し、交流を深められました。

♪アンケートの声♪

どのように就職活動が進むのか、よくわかり大変参考になりました。

卒業生の本音でのご意見をいただいたと思います。ありがとうございました。



高知大学農林海洋科学部・農学部後援会主催

## 保護者会（就職説明会・親睦会）

日時：平成29年11月3日（金・祝日）10：00～12：30  
会場：高知大学農林海洋科学部3号館 3-1-13教室、3-1-12教室

**【就職説明会】 10：00～11：30**  
会場：3-1-13教室

10:00 後援会長挨拶  
10:05 就職室職員による就職活動状況報告  
卒業生による講演  
10:45 卒業生1 耕崎 美有氏 H25年度農学部農学科生命化学コース卒業  
11:00 卒業生2 大隅 雄貴氏 H24年度農学部農学科自然環境学コース卒業  
11:15 卒業生3 窪 敦大氏 H26年度大学院農学専攻修了  
11:30 閉会の挨拶（農林海洋科学部長）

**【親睦会】 11：40～12：30（自由解散）**  
会場：3-1-12教室

軽食をご用意しております。  
普段なかなか話す機会がない保護者の方々と情報交換し、交流を深めていただければ幸いです。

11:40～15:00  
ご希望の方は、別室(裏面参照)で開催している入試相談コーナーで、教員と面談も可能です。(面談する教員は数名ですので、お子さんの指導教員ではない場合があります。ご了承ください。)



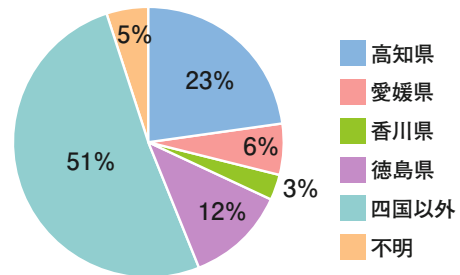
### 就職説明会



### 親睦会



### 都道府県別保護者会参加保護者割合





# 高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則

## (目的)

第1条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部（以下「学部」という。）の充実発展を期し、学部並びに高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻（以下「専攻」という。）の教育活動を助成することを目的とする。

## (名称)

第2条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部後援会と称す。

## (事務所)

第3条 本会の事務所は、後援会長宅に置く。

## (会員)

第4条 本会は、学部及び専攻学生（外国人留学生を除く。）の保護者で組織する。

## (事業)

第5条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (ア) 学部・専攻と保護者の緊密なる連絡
- (イ) 学生の教養ならびに福祉に必要な援助
- (ウ) 学生の就職斡旋に必要な援助
- (エ) その他学部・専攻の教育達成に必要な事業

## (役員)

第6条 本会に次の役員を置く。  
 会長 1名 副会長 2名 理事 若干名  
 監事 2名 会計 1名

## (役員を選出)

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。  
 (1) 会長及び副会長は、理事の互選による。  
 (2) 理事・監事及び会計は、会員の中から選出する。

## (役員の任期)

第8条 役員の任期は、1か年とする。ただし留任を妨げない。  
 2 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (役員の仕事)

第9条 会長は、会務を総理する。  
 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。  
 3 理事は、会務を処理する。  
 4 監事は、会務を監査する。  
 5 会計は、会計事務を処理する。

## (会務)

第10条 本会の会議は、総会と役員会とする。  
 2 総会は、毎年1回学年始めに開く。ただし必要あるときは臨時総会を開くことができる。  
 3 役員会は、必要に応じ会長が召集する。

## (総会)

第11条 総会において行う事項は、次のとおりとする。  
 (1) 予算決算の承諾  
 (2) 会務の報告  
 (3) 役員を選出  
 (4) 規則の改正  
 (5) その他必要な事項

## (役員会)

第12条 役員会は、第5条にかかげる事項を審議し、これを執行する。  
 2 重要事項で緊急を要する場合には、役員会の議決をもって総会に代えることができる。この場合、事後において総会の承認を受けなければならない。

## (議決)

第13条 会議の議決は、出席会員の過半数の賛成をえなければならない。

## (事務の処理)

第14条 本会の事務を処理するため、事務補佐1名を置き、会長が委嘱する。

## (経費)

第15条 本会の経費は、会費をもって充てる。

## (会費)

第16条 本会の会費は30,000円（ただし、専攻の場合は、15,000円）とし、子弟の入学時（転入学、転入学部を含む）に一括納付するものとする。ただし、転入学・転入学部については、次のとおりとする。  
 2年生22,000円 3年生15,000円 4年生7,500円

## (会計年度)

第17条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

## 附則

本規則は、平成28年2月8日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

## 附則

本規則は、昭和29年4月10日から施行する。

昭和30年4月11日一部改正

昭和31年4月10日一部改正

昭和33年4月11日一部改正

昭和39年4月10日一部改正

昭和43年4月18日一部改正

昭和47年4月10日一部改正

昭和49年4月10日一部改正

昭和52年4月11日一部改正

昭和55年4月10日一部改正

昭和57年4月10日一部改正

昭和59年4月10日一部改正

平成 8年4月10日一部改正

平成20年4月 3日一部改正

平成28年2月 8日一部改正

## 平成29年度 学年暦

月 日	学年暦・行事
4月 3日(月)	入学式
4月 4日(火)	新入生オリエンテーション
4月 5日(水)	在来生オリエンテーション
4月 6日(木)~4月 8日(土)	第1学期 履修登録期間
4月 7日(金)	新入生定期健康診断
4月12日(水)	第1学期授業始
8月 1日(火)~8月 7日(月)	第1学期試験期間
8月 8日(火)~8月31日(木)	夏季休業
9月 1日(金)~9月30日(土)	特別授業期間
9月20日(水)	秋季修了式
9月25日(月)~9月27日(水)	第2学期 履修登録期間
10月 1日(日)	創立記念日
10月 2日(月)	第2学期授業始
10月31日(火)	金曜日の授業
11月22日(水)	木曜日の授業
12月27日(水)~1月 8日(月)	冬季休業
1月12日(金)	休講(大学入試センター試験準備)
1月13日(土)~1月14日(日)	大学入試センター試験
1月16日(火)	金曜日の授業
2月 1日(木)~2月 7日(水)	第2学期試験期間
2月 8日(木)~2月28日(水)	特別授業期間
3月 1日(木)~3月31日(土)	学年末休業
3月23日(金)	卒業式・修了式

# 物部キャンパス PHOTO ALBUM

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University  
Monobe Campus

4 April



入学式



後援会総会 入学式後開催しました

5 May



物部キャンパス「学長めし」  
学長と学生が談話しながら食事



実習前に救急救命講習を受講

7 July



避難訓練

8 August



オープンキャンパス 高校生たちがやってきました



よさこい鳴子踊り 日章寮生が踊りました



## 物部キャンパス PHOTO ALBUM

10 October



**物部地区外国人交流懇親会**  
留学生がお世話になっている方や地域の方と触れ合いました

12 December



**消防訓練での消火体験**

11 November



**物部キャンパス一日公開**  
たくさんの方が物部キャンパスで楽しめました

3 March



**平成28年度(昨年度)卒業式**



**歡送祝賀会**  
後援会の支援により開催しています  
卒業・修了式後、友人や恩師と語らいます



**後援会保護者会開催**  
就職説明会と親睦会を開催しました



## 授業風景

「農場実習」では、物部キャンパス内にある附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター南国フィールドを、水田、菜園、加温施設、果樹園、牛舎、放牧地、庭園などを備えた大規模複合農園とみなし、実習生はそこで実際に行われている生産活動に部分的に参加しながら、農業生産に関わる基本的な生産技術や経営的視点を備えた生産理論を習得する授業を行っています。

### 田植え



### トマト、ナス、ピーマンいろいろ栽培



### パイナップルの挿し芽実践中



### パイナップルのさし芽を取っています。





## 物部キャンパス PHOTO ALBUM

■ 土佐あかうし 頭数が少なく絶滅の恐れのある高知県独特の和牛を飼育しています



■ 稲刈り



■ 収穫した柿を  
"さらし柿"と"干し柿"にしました



■ 収穫したみかんをジュースに加工







# 高知大学農林海洋科学部

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

# 物部キャンパス

Monobe Campus

- 1 農林海洋科学部1号館
- 2 農林海洋科学部2号館
- 3 農林海洋科学部3号館
- 4 農学部4号館
- 5 実験研究棟
- 6 厚生会館(非常勤講師宿泊施設)
- 7 学術情報図書館物部分館及び講義室棟
- 8 福利厚生会館(大学生協)
- 9 附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
- 10 体育館
- 11 日章寮
- 12 留学生寄宿舍
- 13 国際交流会館
- 14 遺伝子実験施設
- 15 共同利用機器分析室棟
- 16 海洋コア総合研究センター
- 17 大学院総合人間自然科学研究科  
黒潮圏総合科学専攻棟
- 18 運動場

